

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

No. _____

農 薬 抄 録

ダイアジノン (殺虫剤)

昭和62年12月10日 作成
平成4年7月20日 改訂(1)
平成6年2月10日 改訂(2)
平成16年1月30日 改訂(3)
平成20年8月25日 改訂(4)
平成24年11月19日 改訂(5)
平成25年2月1日 改訂(6)
平成26年6月25日 改訂(7)
平成27年6月30日 改訂(8)

日本化薬株式会社
アグロ事業部

連絡先: 日本化薬株式会社 アグロ事業部

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

目 次

	頁
I. 開発の経緯	I - 1
II. 物理的・化学的性状	II - 1
III. 生物活性	III - 1
IV. 適用および使用上の注意	IV - 1
V. 農薬残留量	V - 1
VI. 有用動植物等に及ぼす影響	VI - 1
VII. 使用時安全上の注意、解毒法等	VII - 1
VIII. 毒性	
〔毒性試験一覧表〕	VIII - 1
1. 原体を用いた試験成績	VIII - 14
(1) 急性毒性	VIII - 14
(2) 眼および皮膚に対する刺激性	VIII - 26
(3) 皮膚感作性	VIII - 31
(4) 急性神経毒性	VIII - 33
(5) 急性遅発性神経毒性	VIII - 39
(6) 90日間反復経口投与毒性	VIII - 43
(7) 21日間反復経皮投与毒性	VIII - 67
(8) 90日間反復吸入投与毒性	VIII - 72
(9) 反復経口投与神経毒性	VIII - 73
(10) 28日間反復投与遅発性神経毒性	VIII - 78
(11) 1年間反復経口投与毒性及び発癌性	VIII - 79
(12) 繁殖毒性及び催奇形性	VIII - 155
(13) 変異原性	VIII - 179
(14) 生体機能影響	VIII - 191
(15) 解毒及び治療	VIII - 195
2. 原体混在物及び代謝物を用いた試験成績	VIII - 198
3. 製剤を用いた試験成績	VIII - 211
4. 参考資料	VIII - 311

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

IX. 動植物および土壌等における代謝分解

〔代謝分解試験一覧表〕	IX - 1
1. 動物代謝に関する試験	IX - 9
2. 植物代謝に関する試験	IX - 27
3. 土壌中動態に関する試験	IX - 45
4. 水中動態に関する試験	IX - 55
5. 土壌吸着試験	IX - 72
6. 水中光分解試験	IX - 78
7. 加水分解試験	IX - 79
8. 魚類濃縮性試験	IX - 81
〔代謝分解のとりまとめ〕	IX - 84

X. 参照資料

参照資料 1 ダイアジノン87%原体を用いた試験成績	X - 1
参照資料 2 動植物および土壌等における代謝分解性に関する文献	X - 18

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

I. 開発の経緯

1. 起源および発明の経緯

ダイアジノンとは、1951年(昭和26年)に J. R. Geigy S. A. (現在の Syngenta AG)社のギシン博士が合成し、C-24480の試験番号で試験が行われた。当初、同社により DDT 抵抗性のハエ、カの防除用殺虫剤として開発され、1952年(昭和27年)に企業化された。

2. 開発の経過

昭和28年にガイギー社が日端貿易を通じ、日本におけるダイアジノンの効力評価試験を開始し、昭和31年に日本化薬株式会社がガイギー社と技術導入契約を締結して、ダイアジノン原体の製造を開始した。当初、農業用に開発された20%乳剤は分解しやすく、効力不十分の上、薬害を発生したため、主として防疫用の乳剤、粉剤、油剤が開発・上市された。昭和35年に、安定でかつ薬害のないダイアジノン水和剤(34%)の開発に成功し、果樹・野菜用殺虫剤として実用化された。

日本化薬(株)は、昭和37年に珪石粒の表面にダイアジノン原体をコーティングする粒剤の製造特許を出願し、昭和39年にダイアジノン粒剤3(3%)が、昭和43年にはダイアジノン粒剤5(5%)が、平成11年にダイアジノン粒剤10(10%)が農薬登録を取得した。一方、農業用の粉剤についても昭和39年頃までに安定化に成功し、ダイアジノン粉剤3(昭和39年)、粉剤2(昭和42年)が登録され、同時に各種の混合粉剤の開発・上市が始まった。また、昭和34年にダイアジノン水和剤34(34%)が、昭和42年にダイアジノン乳剤40(40%)が、平成2年にマイクロカプセル化製剤としてダイアジノンS.L.ゾル(25%)が、平成10年に水を基材ベースとした乳剤としてショットガン(40%)が農薬登録を取得した。

農薬をとりまく当時の情勢は、昭和31～33年頃にパラチオン、TEPP等による死亡事故が激増したため、ダイアジノン、MEP、MPP等のいわゆる低毒性有機燐剤が歓迎された。また、昭和44年頃からDDT、BHC、ドリノ剤等の有機塩素剤の残留問題が表面化したこともあって、水稲用ダイアジノン粒剤の出荷量が飛躍的に上昇した。昭和46年、ダイアジノンの安全使用基準が設定され、昭和53年および平成6年に改訂された。この間、昭和46年に農薬取締法の大改正が行われ、これに前後してダイアジノンについても作物および土壌残留試験成績の整備、長期毒性を中心とする毒性試験の蓄積を開始した。

昭和47年頃からイネのツマグロヨコバイの有機燐剤またはカーバメート剤に対する抵抗性が顕在化し、昭和49年に日本植物防疫協会に抵抗性研究会が設立され、ダイアジノンを含む各種水稲あるいは果樹用殺虫剤の抵抗性に関して各方面から試験・検討が行われた。日本化薬(株)も他の農薬会社と共同してダイアジノンを含む粉剤、粒剤、微粒剤の開発に努め、抵抗性対策と防除の省力化をはかった。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

ダイアジノン剤の使用量の増加に伴い、一部地域で魚類とくに汽水域に生息するボラに対する毒性問題が発生した(昭和52~53年頃)。日本化薬㈱ではダイアジノンの魚介類毒性データを整備するとともに、主要河川におけるダイアジノン濃度の消長を測定し、これに基づいて事故の危険性が予想される地域での販売を自粛し、併せて使用上の注意事項の徹底につとめた結果、最近ではダイアジノンによる魚毒事故は報告されていない。

2008年(平成20年)9月19日に開催された第25回農薬専門調査会総合評価第一部会、2013年(平成25年)4月26日に開催された第26回農薬専門調査会評価第一部会、2013年(平成25年)12月13日に開催された第100回農薬専門調査会幹事会及び2014年(平成26年)3月7日に開催された第162回動物用医薬品専門調査会において、ダイアジノンに係る食品健康影響評価が審議され、審議結果(案)がとりまとめられ、一日摂取許容量を0.001 mg/kg体重/日と設定された。

2014年(平成26年)1月21日開催の中央環境審議会土壌農薬部会農薬小委員会(第38回)において、ダイアジノンに係る水産動植物の被害防止に係る農薬登録保留基準が審議され、審議の結果、基準値を0.077 μ g/Lと設定された。また、2014年(平成26年)5月16日付官報にて水産動植物の被害防止に係る農薬登録保留基準が告示された。

以上のように、ダイアジノンはその開発の歴史は古く、いくつかの事故を経て今なお広汎に使用されている数少ない農薬である。最近にいたっても、畑作における土壌害虫防除用殺虫剤、また、危険性が回避される製剤をさらに展開すべく開発努力が続けられている。

3. 諸外国における登録状況および使用状況等

ダイアジノンはほぼ全世界で登録され、広範に使用されてきた。その適用範囲は、穀物、果樹、野菜、花卉、芝生、牧草、森林等の害虫の防除、家庭用ないし防疫用害虫の駆除および家畜やペットの体外寄生虫等の防除と極めて広がった。しかし、1990年代に入って以降各国でヒトや野生動物及び環境動植物への安全性の観点からその使用方法や適用範囲の見直しが行われてきている。

FAO/WHOの合同残留農薬専門家会議(JMPR)においてダイアジノンの毒性影響評価および残留農薬による食品由来の暴露評価が1963年より行われてきている。本剤の毒性学上のEnd-PointであるChEについて、WHOは1998年に「ChE活性阻害評価方法を血漿中から赤血球及び脳内のChE活性阻害量20%以上を毒性学的有意」として評価方法を改訂している。そこで、JMPRは2006年の毒性影響評価で、ダイアジノンを再評価し、それまでヒト暴露による血漿ChE活性阻害からADI 0.002 mg/kg/dayと設定していたものを、ラットの92日間反復経口投与による赤血球ChE活性阻害に基づくNOAEL 0.5 mg/kg/dayからADIが0.005 mg/kg/dayに改訂された。また、2001年の同会議でラットの急性神経毒性試験

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

のNOAEL 2.5 mg/kg/dayに基づき設定された急性参照用量（ARfD：0.03 mg/kg/day）を維持することが確認された。JMPRにおける安全性評価結果を下表にまとめた。

試験	End-Point	NOAEL (mg/kg/day)	UF	ADI (mg/kg/day)
ラット急性神経毒性	血漿ChE活性阻害	2.5	100	ARfD 0.03
ラット92日間 反復経口投与	赤血球ChE活性阻害	0.5	100	ADI 0.005

米国では農業用、家庭園芸用および防疫用として広く使用されてきたが、1996年に公布された食品品質保護法（FQPA）に基づき再評価が行われ、2006年7月にその最終結果（RED：Reregistration Eligibility Decision）が公表された。米国当局と農薬登録会社は再評価の過程で、農業用の一部の用途を自主的に登録失効させるとともに家庭園芸用と防疫用を完全に止めることで合意した。米国における安全性評価結果、ARfD及びCRfD（慢性参照用量、ADIと同等）を下表にまとめた。

試験	End-Point	NOAEL (mg/kg/day)	UF	RfD (mg/kg/day)
ラット急性 神経毒性	血漿ChE活性阻害	0.25	100	ARfD 0.0025
各種 ¹⁾	ChE活性阻害	0.02	100	CRfD 0.0002

1) イヌの4週、90日および1年の試験とラットの4週、90日、90日神経毒性および2年の試験を総合して判断。

なお、US EPAは2008年から次の再評価作業を進めていて、最終化は2014年と計画されている。

EUにおける農業用分野の登録については、ダイアジノンをも有効成分とする農薬の登録を維持する会社がなく、EU当局が2007年6月EU指令91/414/EECのAnnex Iからダイアジノンを削除することを決定し、同年末に発効した。また、防疫用分野においても指令98/8/ECのAnnex I、IA又はIBから削除することを決定した（2010/71/EU）。しかし一方、動物用医薬品分野は2012年1月末現在も使用が認められている（2377/90/EEC）。なお、EUでは91/414/EECのAnnex Iからの削除に伴い2007年6月27日付けでダイアジノンのMRLが改訂された（2007/39/EC）。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

その他、カナダやオーストラリアは2000年前後から米国の動きと協調した形で再評価を行い、使用基準やMRLの見直しが行われている。

なお、本剤の原体不純物について、WHOは1998年Diazinon(EHC 198, 1998)にて「1979年以後、ダイアジノンの製造が改良され、たとえば、テトラエチルピロリン酸 (TEPP) のような毒性の高い不純物の含有量が著しく減少した。これらの前進的改良の結果、工業規格のダイアジノンの経口での急性LD₅₀は高まった(例えば、ラットにおいて、250mg/kgから1250mg/kgへ)。」と述べている。既に提出した毒性データの多くが1979年以前に実施されており、申請者は2011年ラット及びイヌの90日間反復経口投与毒性試験、ラット代謝試験、植物代謝試験、土壌代謝試験を新たに追加実施した。これらの試験の結果も本農薬抄録に収載した。

ダイアジノンのCodexにおける残留基準値 (MRL) を下表に示した。

ダイアジノンのC o d e x M R L s (2012年2月現在)

食 品 名	MRL (ppm)	食 品 名	MRL (ppm)
とうもろこし	0.02*	桃	0.2
とうもろこし(生食用)	0.02	サクランボ	1
さやえんどう	0.2	いちご	0.1
豆類(さや付/未成熟)	0.2	ラズベリー(赤、黒)	0.2
ばれいしょ	0.01*	ブラックベリー	0.1
てんさい	0.1	クランベリー	0.2
ラディッシュ	0.1	ボイゼンベリー	0.1
はくさい	0.05	キウイフルーツ	0.2
コールラビ	0.2	パイナップル	0.1
キャベツ(結球)	0.5	スグリ(黒、赤、白)	0.2
ケール	0.05	プラム(プルーンを含む)	1
ブロッコリー	0.5	プルーン(乾燥)	2
たまねぎ(鱗茎)	0.05	アーモンド(殻)	5
ねぎ	1	アーモンド	0.05
にんじん	0.5	くるみ	0.01*
トマト	0.5	ホップ(乾燥)	0.5
ピーマン(赤ピーマンを含む)	0.05	牛、豚、羊の肉(脂肪)	2(fat, V)
きゅうり	0.1	牛、山羊、豚、羊の腎臓	0.03(V)

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

かぼちゃ(夏)	0.05	牛、山羊、豚、羊の肝臓	0.03(V)
カンタロープ	0.2	山羊の肉(脂肪)	2(fat, V)
ほうれんそう	0.5	乳汁	0.02
レタス(結球)	0.5	鶏卵	0.02*
レタス(非結球)	0.5	鶏肉	0.02*
とうがらし(乾燥)	0.5	鶏の内臓	0.02*
なし状果	0.3		

* : 定量限界

** : (fat) ; 肉の脂肪にMRLを適用

(V) : MRL は動物の外部処理に適用

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

II. 物理的・化学的性状

1. 有効成分の名称および化学構造

(1) 一般名

ダイアジノン

diazinon (I S O名)

(2) 別名

ダイアジノン、Diazinon、エキソジノン、ネオシッド(防疫用)、
ジムピラート(動物用)

商品名：ダイアジノン粒剤 3

家庭園芸用ダイアジノン粒剤 3

ダイアジノン粒剤 5

ダイアジノン粒剤 10

ダイアジノン水和剤 34

ダイアジノン乳剤 40

ショットガン

ダイアジノン S L ゾル

(混合剤)

エチメトン粒剤 6 (エチルチオメトン・ダイアジノン粒剤)

(その他の製剤および混合剤については省略した)

(3) 化学名

(2-イソプロピル-4-メチルピリミジン-6)-ジエチルチオホスフェート

(2-isopropyl-4-methylpyrimidin-6)-diethylthiophosphate (MAFF名)

O, O-ジエチル-O-2-イソプロピル-6-メチルピリミジン-4-イル=ホスホチオアート

O, O-diethyl O-2-isopropyl-6-methylpyrimidin-4-yl phosphorothioate

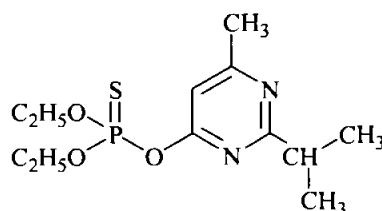
(IUPAC名)

O, O-ジエチル-O-[6-メチル-2-(1-メチルエチル)-4-ピリミジン-イル]=ホスホチオアート

O, O-diethyl O-[6-methyl-2-(1-methylethyl)-4-pyrimidinyl]

phosphorothioate (CAS名)

(4) 構造式



(5) 分子式 C₁₂H₂₁N₂O₃PS

(6) 分子量 304.35

(7) CAS No. 333-41-5

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

2. 有効成分の物理的・化学的性状

項目	資料No.	測定値 (測定条件)	測定方法/試験機関 (GLP)		
色調	物化1	無色透明 (常温常圧)	JIS Z 8723/		
形状	物化2	液体 (常温常圧)	官能法/		
臭気	物化3	芳香臭 (常温常圧)	官能法/		
密度	物化4	1.1153 g/cm ³ (20℃)	OECD 109 振動式密度計法/ (GLP)		
融点	物化5	測定不能 (-70℃でも澄明で流動性を保っていたため)	OECD 102 凝固点法/ (GLP)		
沸点	物化6	測定不能 (215℃以上で分解)	OECD 103 キャピラリー法/ (GLP)		
蒸気圧	物化7	0.01197 Pa (25℃)	OECD 104 GC自動気体飽和法/ (GLP)		
解離定数 (pKa)	物化8	pKa=2.60 (20℃)	OECD 112 分光光度法 (GLP)		
溶解度	水	物化9	0.060 g/L (22℃, pH 7.0)	OECD 105 フラスコ法 (GLP)	
	有機溶媒	ヘプタン	物化10	>583.7 g/L (22℃)	EEC 94/37 No.L 194/69 2.7/ フラスコ法/ (GLP)
		キシレン	物化10	>546.0 g/L (22℃)	
		ジクロロメタン	物化10	>580.7 g/L (22℃)	
		アセトン	物化10	>558.9 g/L (22℃)	
		メタノール	物化10	>578.3 g/L (22℃)	
		酢酸エチル	物化10	>564.1 g/L (22℃)	
オクタノール/水分配係数	物化11	Log Pow=3.42 (24℃)	EEC 84/449/EE A.8 フラスコ振とう法/ (非GLP)		
生物濃縮性	物化16	コイ: BCF 65~78	12農産第8147号 (GLP)		
土壌吸着係数	物化12	【水田土壌】(25℃、遮光下) K _p ^{ads} _{oc} : 1880, 2520, 538, 401 K _p ^{ads} : 63.3, 30.8, 14.0, 7.02 【畑地土壌】(25℃、遮光下) K _p ^{ads} _{oc} : 304, 643, 526, 205 K _p ^{ads} : 7.79, 4.89, 6.05, 3.08	OECD 106/		
加水分解性	物化13	推定半減期 (25℃、暗所) pH5.0 約7日 pH7.0 約93日 pH9.0 約65日	OECD 111/		
水中光分解性	蒸留水 (滅菌)	物化14	照射区 暗所区 推定半減期 約40日 約35日 (蛍光キカルランプ [®] 、25℃、25.5W/m ² 、310~400nm)	農薬の成分物質の水中での光分解性試験の暫定実施指針 (農林水産省・農薬検査所 平成2年)	
	自然水		照射区 暗所区 推定半減期 約8日 約12日 (蛍光キカルランプ [®] 、25℃、25.5W/m ² 、310~400nm)		
安定性	対熱	物化15	やや不安定 (25~150℃の加熱でわずかな吸熱及び発熱反応がみられた)	OECD 113 DSC/ (GLP)	
スペクトル	物化16	別添	UV/VISのみOECD101/ (GLP)		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

スペクトル

① UVスペクトル()、GLP適用)

測定条件：測定装置 Perkin-Elmer社製 lambda 2
double beam spectrophotometer

セル長 石英セル 10 mm

測定波長 210 ~ 750 nm

測定温度 室温(25℃)

測定濃度 1.70×10^{-4} mol/L

測定pH 2、6、13

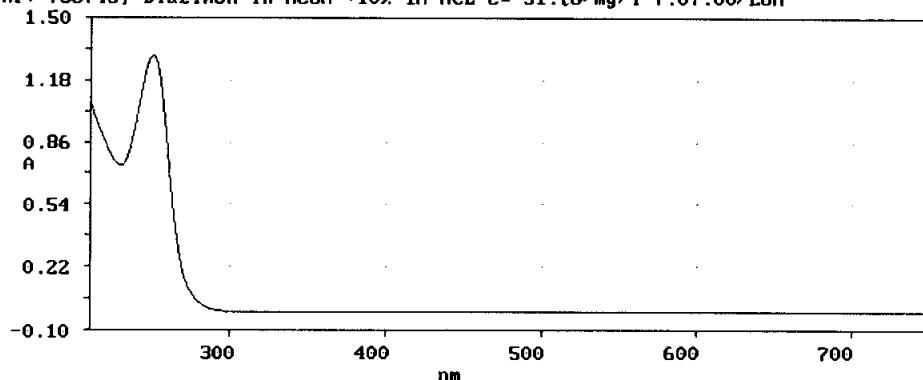
測定溶媒 pH 2,

pH 6,

pH 13,

pH 2でのUV/VISスペクトル()

X: 76874504; 750.0 - 210.0 nm; pts 2701; int 0.20; ord -0.005 - 1.3117 A
Inf: 768745, Diazinon in MeOH +10% 1M HCL c= 51.78 mg/l 7.07.00/LDM



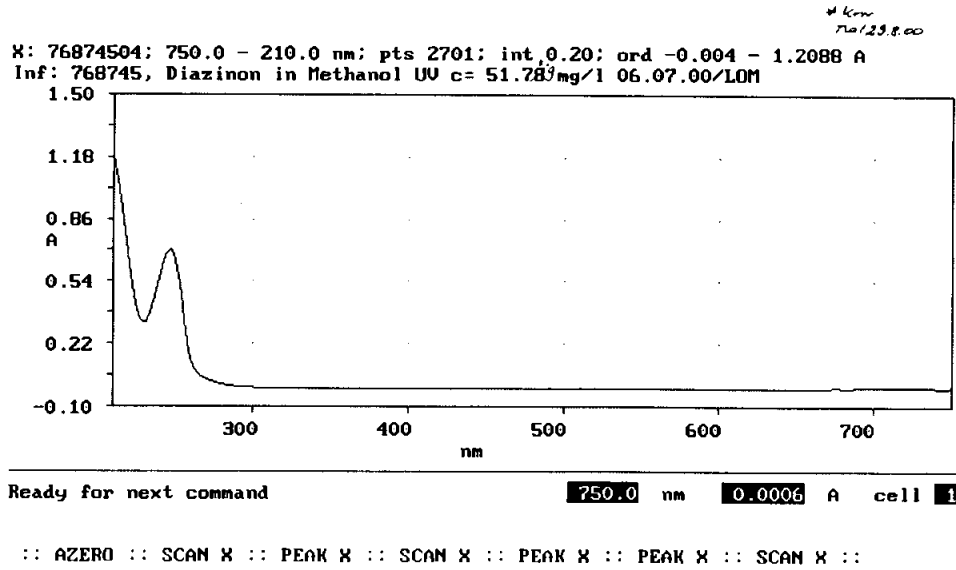
Ready for next command

750.0 nm -0.0001 A cell 1

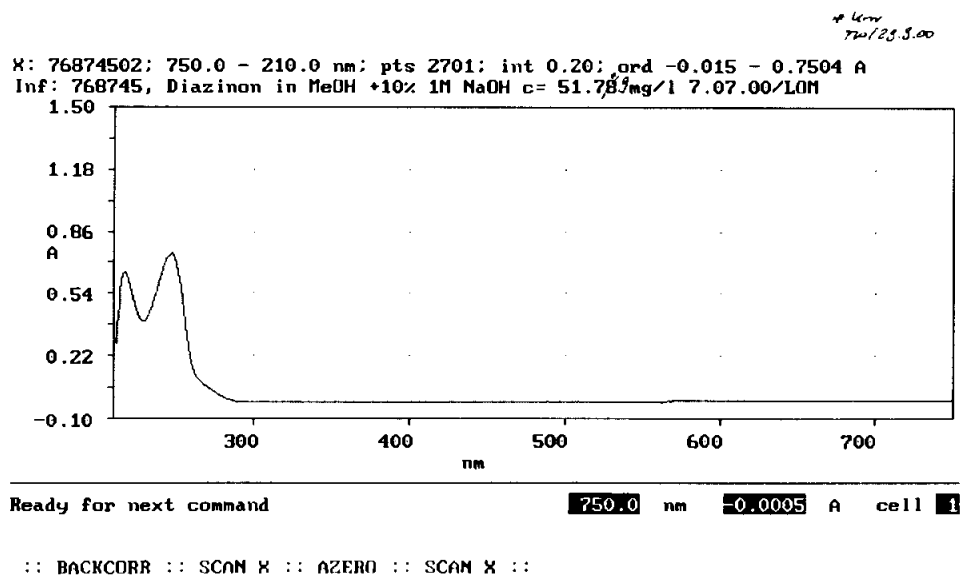
:: SCAN X :: AZERO :: SCAN X :: PEAK X :: SCAN X :: AZERO :: SCAN X ::

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

pH 6でのUV/VISスペクトル()



pH 13でのUV/VISスペクトル(極大波長 247 nm、 $\log \epsilon$ 3.64)



本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

② IRスペクトル()、GLP適用)

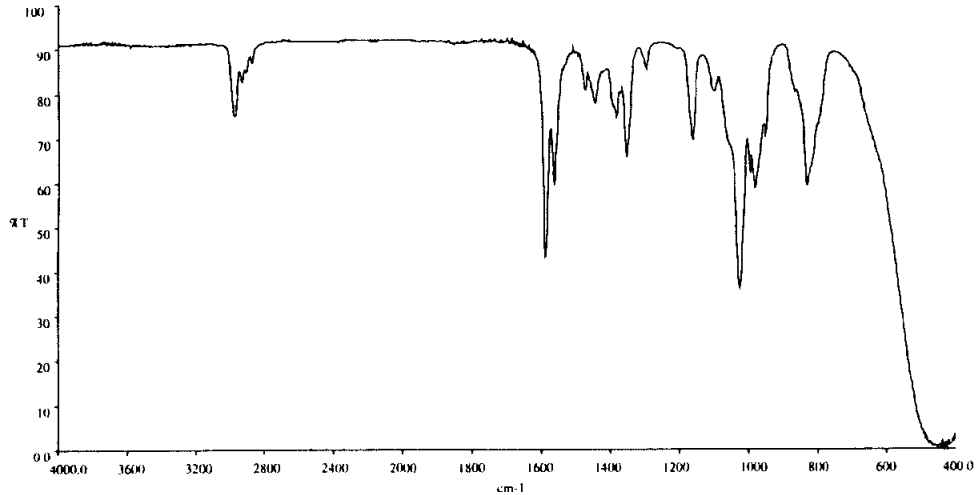
測定条件：NaCl法により測定した。

測定装置 Perkin-Elmer社製 PE 1600 FT-IR

測定波数 4000 cm^{-1} ~ 400 cm^{-1}

測定温度 室温

Date: 25.07.2000



—768745.SP - 25.07.2000 - Diazinon Batch 004026, NaCl-plates

Comments

Analyst *SJ*

768745.PK

```
768745.SP 1801 4000.00 400.00 0.20 92.50 4.00 %T 16 6.00
Diazinon Batch 004026, NaCl-Scheiben
REF 4000 90.90 2000 92.05 600
2975.28 75.09 1587.24 42.96 1562.00 59.97 1443.57 78.11 1381.74 74.87
1351.89 65.94 1160.45 70.01 1023.24 36.19 981.29 59.08 831.77 59.87
440.15 0.34 435.97 0.23 432.00 0.20 428.00 0.42 423.93 0.52
415.72 0.89
END 16 PEAK(S) FOUND
```

特徴的な吸収波数とその帰属

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

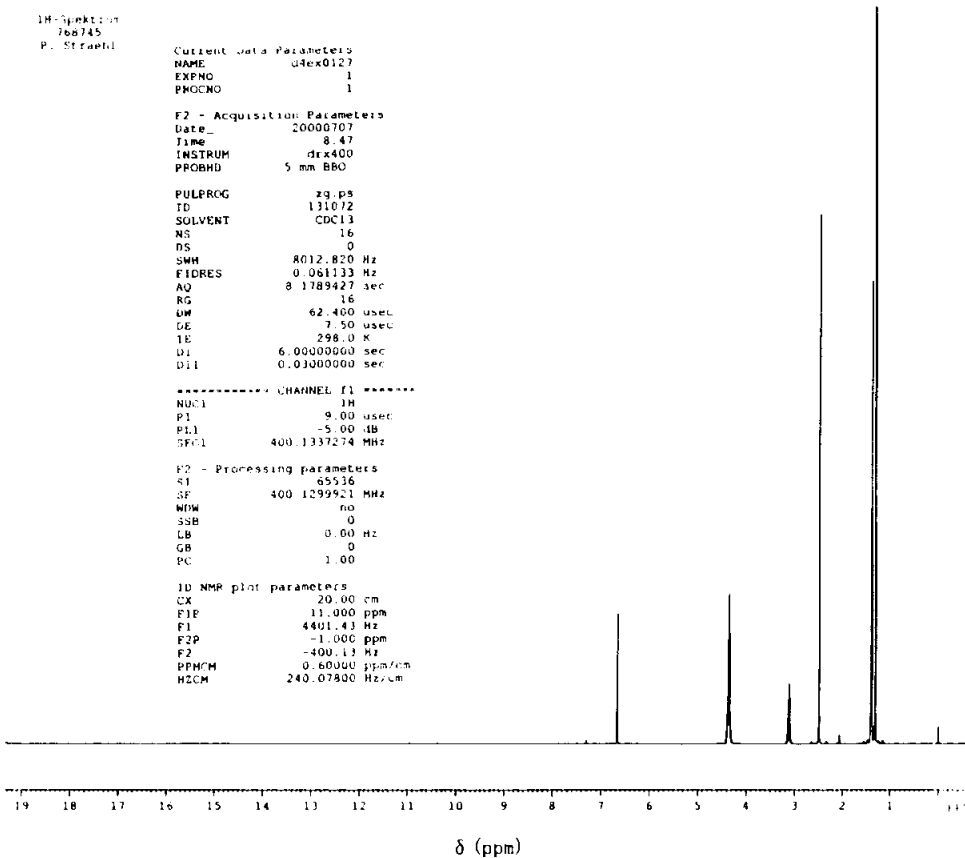
③ ^1H -NMR スペクトル()、GLP 適用)

測定条件：測定装置 BRUKER社製 DRX 400 NMR-Spectrometer

溶媒 CDCl_3

基準物質 TMS

測定範囲 0 ~ 19 ppm (^1H)



スペクトルの帰属

化学シフト (ppm)	多重度	^1H 数	帰属

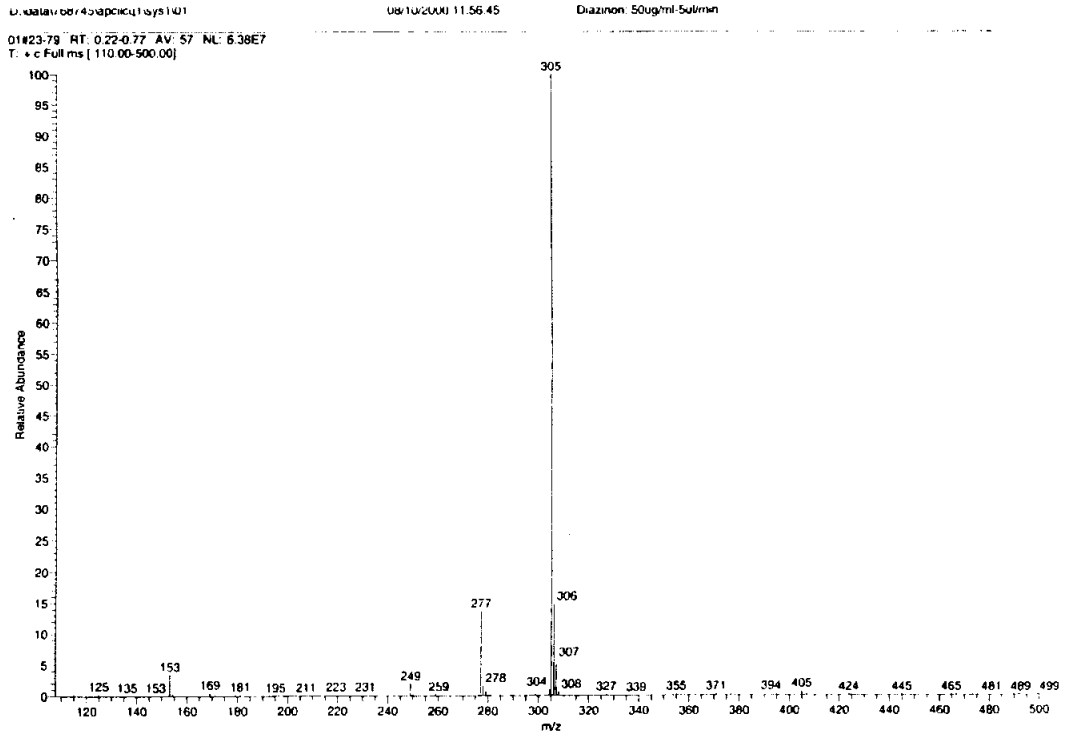
本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

⑤ マススペクトル(G L P適用)

測定条件：測定装置 Finnigan MAT社製 LCQ, Xcalibur 1.0

測定モード APCI, Positive, Centroid

測定範囲 110 ~ 500 m/z

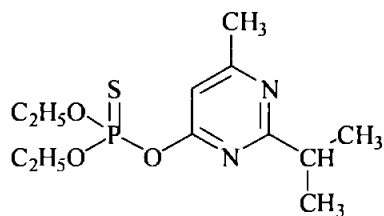


本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

3. 原体の成分組成

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量 (%)	
	一般名 (略名)	化学名				規格値	通常値又はレンジ
有効成分	ダイアジノン	以下記載	以下記載	$C_{12}H_{21}N_2O_3PS$	304.35		
混在物		以下記載	以下記載				

有効成分 : ダイアジノン



化学名 : (2-isopropyl-4-methylpyrimidinyl-6)-diethylthiophosphate

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

原体中の混在物

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

4. 製剤の組成

1) 3.0%粒剤(ダイアジノン粒剤3、他)

ダイアジノン	3.0%
不活性鉱石粒状物及び結合剤 等	97.0%

2) 5.0%粒剤(ダイアジノン粒剤5、他)

ダイアジノン	5.0%
不活性鉱石粒状物及び結合剤 等	95.0%

3) 10.0%粒剤(ダイアジノン粒剤10)

ダイアジノン	10.0%
不活性鉱石粒状物及び結合剤 等	90.0%

4) 34.0%水和剤(ダイアジノン水和剤34、他)

ダイアジノン	34.0%
無機質珪酸塩類、界面活性剤 等	66.0%

5) 40.0%乳剤(ダイアジノン乳剤40、他)

ダイアジノン	40.0%
乳化剤、有機溶剤 等	60.0%

6) 40.0%乳剤(ショットガン)

ダイアジノン	40.0%
水、界面活性剤 等	60.0%

7) 25.0%マイクロカプセル剤(ダイアジノンSLゾル)

ダイアジノン	25.0%
水、溶剤 等	75.0%

8) 30.0%乳剤(エキソジノン乳剤)

ダイアジノン	30.0%
有機溶剤、乳化剤 等	70.0%

9) 25.0%粉剤(粉衣用ペアーカスミンD、他)

ダイアジノン	25.0%
カスガマイシンー塩酸塩	3.4%
チウラム	25.0%
鉱物質微粉 等	46.6%

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

10) 5.0%油剤(ユージェサイドD、他)

ダイアジノン	5.0%
メチルオイゲノール	80.0%
有機溶剤 等	15.0%

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

Ⅲ. 生物活性

1. 活性の範囲

各種害虫に対する殺虫力価

害虫名	試験方法	供試系統	検定ステージ	中央致死薬量(μg)または濃度(ppm)
<i>Chilo suppressalis</i> ニカメイチュウ	局所施用	岡山県倉敷	終令幼虫	0.226 μg/虫
<i>Cnaphalocrocis medinalis</i> コブノメイガ	茎葉浸漬	鹿児島県鹿屋	3令幼虫	3.5 ppm
<i>Pieris rapae crucivora</i> モンシロチョウ	茎葉浸漬	埼玉県上尾	3令幼虫	10.0 ppm
<i>Plutella xylostella</i> コナガ	局所施用 茎葉浸漬	埼玉県上尾 "	3令幼虫 "	0.50 μg/虫 18.0 ppm
<i>Mamestra brassicae</i> ヨトウガ	茎葉浸漬	埼玉県上尾	2令幼虫	0.32 μg/虫
<i>Spodoptera litura</i> ハスモンヨトウ	局所施用	農技研系	3令幼虫	2.10 μg/虫
<i>Adoxophyes</i> sp. チャノコカクモンハマキ	局所施用 茎葉浸漬	薬検研 "	2令幼虫 "	3.5 μg/虫 20.0 ppm
<i>Adoxophyes orana fasciata</i> リンゴカクモンハマキ	茎葉浸漬	長野県下伊那	3令幼虫	35.7 ppm
<i>Hyphantria cunea</i> アメリカシロヒトリ	茎葉浸漬	埼玉県上尾	3令幼虫	15.0 ppm
<i>Lymantria dispar japonica</i> マイマイガ	局所施用	埼玉県上尾	3令幼虫	1.5 μg/虫
<i>Nilaparvata lugens</i> トビイロウンカ	局所施用 茎葉浸漬	鹿児島県鹿屋 "	雌成虫 "	5.93 μg/g 18.5 ppm
<i>Laodelphax striatellus</i> ヒメトビウンカ	局所施用 茎葉浸漬	中国農試系 "	雌成虫 "	1.37 μg/g 9.3 ppm
<i>Sogatella furcifera</i> セジロウンカ	局所施用	鹿児島県加世田	雌成虫	1.03 μg/g
<i>Nephotetix cincticeps</i> ツマグロヨコバイ	局所施用	熊本県熊本	雌成虫	8.4 μg/g
<i>Myzus persicae</i> モモアカアブラムシ	茎葉浸漬 経口毒性	埼玉県上尾 "	胎生仔虫 "	14.0 ppm 6.5 ppm
<i>Aphis gossypii</i> ワタアブラムシ	茎葉浸漬	埼玉県上尾	胎生仔虫	13.5 ppm
<i>Pseudococcus comstoki</i> クロコナカイガラムシ	虫体浸漬	長野県下伊那	2令幼虫	5.8 ppm
<i>Anomala cuprea</i> ドウガネブイブイ	土壌混和	埼玉県上尾	1令幼虫	0.4 ppm
<i>Maladera castanea</i> アカビロードコガネ	土壌混和	埼玉県上尾	1令幼虫	0.2 ppm
<i>Anomala rufocuprea</i> ヒメコガネ	土壌混和	埼玉県上尾	1令幼虫	0.2 ppm
<i>Hylemya platura</i> タネバエ	土壌混和	埼玉農試系	幼虫	0.5 ppm
<i>Thrips tabaci</i> ネギアザミウマ	茎葉浸漬	埼玉県上尾	成虫	10.0 ppm

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

上記害虫のほか、ダイアジノンの殺虫スペクトラムは広範囲にわたり、ダニ目(ホコリダニ科、ハダニ科、コナダニ科)、トビムシ目(マルトビムシ科)、直翅目(ゴキブリ科、チャバネゴキブリ科、コオロギ科、バッタ科、ケラ科)、シロアリ目、アザミウマ目(アザミウマ科、クダアザミウマ科)、半翅目(カメムシ類、ヨコバイ類、ウンカ類、キジラミ科、コナジラミ科、アブラムシ科、カイガラムシ類)、鱗翅目、甲虫目、膜翅目(ハバチ類、アリ科)、双翅目(ガガンボ科、ユスリカ科、キノコバエ科、タマバエ科、ミバエ科、ミギワバエ科、キモグリバエ科、ショウジョウバエ科、ハモグリバエ科、ハナバエ科)、その他ハリセンチュウ目(アフェレンコイデス科、メロイドギネ科)等の害虫類に対して殺虫活性のあることが圃場の試験結果から得られている。

ダイアジノンは、動植物体中で、
()に代謝されるので、その殺虫力価を代表的な害虫で調査した。

ダイアジノン代謝物の殺虫力価(中央致死葉量・LD₅₀ µg/虫)

供 試 薬 剤	ニカメイチュウ 局所施用/越冬幼虫	ヒメトビウンカ 局所施用/雌成虫	ツマグロヨコバイ 局所施用/雌成虫
ダイアジノン	0.36	0.0072	0.136
	0.28	0.0034	0.082
	0.22	0.0018	0.049

の殺虫力価をダイアジノンと比較すると、いずれも弱い傾向が認められた。

2. 作用機作

ダイアジノンのモンシロチョウ幼虫における中毒症状は下記のとおりである。ダイアジノンを処理したキャベツ葉を摂食した後、激しく動きまわり(興奮的歩行)、頭部を上方にあげて静止(歩行能力の喪失)、続いて吐液、苦悶、横転、痙攣、麻痺等の諸症状を呈して死亡する神経毒として作用する。

昆虫体内に取り込まれたダイアジノンは、速やかに神経のシナプス部に達し、AChEを阻害して、神経系の刺激伝達機構を攪乱して、異常興奮を惹起し、死にいたらしめる。

ダイアジノンは昆虫体内で が生成される。
のAChE阻害力は、ダイアジノンに比較して極めて高いことが明らかにされている。

ダイアジノンの殺虫ルートは接触毒、食毒、呼吸毒等によって殺虫効果を発揮するが、対象害虫、処理時期、対象作物、製剤、処理法等によってその殺虫ルートに差が認められる。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

粒剤の水面施用法によるウンカ、ヨコバイ類の防除効果は、ダイアジノンの蒸散作用による呼吸毒が主体であり、食毒や接触毒はわずかである。一方、ニカメイチュウ幼虫に対しては、毛管現象や根より吸収移行したダイアジノンに、主に接触的、次いで食毒として作用している。

育苗箱処理法ではウンカ、ヨコバイ類そしてニカメイチュウともに食毒として作用する。

粒剤の土壌混和处理、地表面処理によるネキリムシ幼虫に対しては主に接触毒で、タネバエ、コガネムシ類幼虫に対しては主に接触毒であるが、食毒作用も無視できない。

ハウス内の地表面処理によるアブラムシ類、コナガに対しては呼吸毒として作用している。

3. 作用特性と防除上の利点

ダイアジノンは水稻、果樹、野菜、森林、芝、花植木等の地上部はもちろんのこと、地下部を加害する主要害虫に対して幅広い適用性を示す。害虫の種類・ステージ、発生の時期、作物の種類・ステージ、栽培方法、散布器具等各種作物の栽培体系の中のあらゆる場面に最高の防除効果を発揮するように多様な製剤を開発して農家のニーズに対応して来た。

ダイアジノンには極めて特徴的な2つの物理的・化学的性質がある。適度な水溶性(400 ppm/20℃)と比較的高い蒸気圧(1.4×10^{-1} mmHg/20℃)である。

細粒化した珪石粒表面にダイアジノンを吹き付けコーティングしたダイアジノン粒剤を水稻害虫を対象として水面施用すると、有効成分は速やかに田面水に溶出し均一に拡散分布する。田面水中のダイアジノンは根や茎をとおして、また、一部は毛管現象によって稲体全体に分布して接触毒または食毒作用によって長期間にわたって害虫から稲を守る。田面表層のダイアジノンは蒸散作用によって呼吸毒として害虫に対して速効的に作用する。

土壌害虫防除に際しても、処理された場所から、土壌水分や土壌粒子の空隙をとおして有効成分が移動拡散し殺虫効果をより高めるように作用している。

ダイアジノン製剤は有効成分の固有の性質を最大限に発揮させるように、十分な検討がなされた結果、極端に条件が異なる水稻害虫用の水面施用剤と畑作害虫用の土壌処理剤の両用途に高い防除効果が得られ、薬害の心配のないこと、そして簡便な施用法等によって広く実用に供されている剤となっている。

IV. 適用及び使用上の注意

1. 適用病害虫の範囲および使用方法

1) ダイアジノン粒剤3 (ダイアジノン3.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量 (kg/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む農薬 の総使用回数
かんしょ	コガネムシ類幼虫	5~10	作付前及び 収穫30日前まで	3回以内	土壌混和	3回以内(マイクロカプセル剤の植付前の処理は1回以内、マイクロカプセル剤の散布は2回以内、粒剤の散布は2回以内)
	ケラ、ネキリムシ類	6~9	植付前	1回		
ばれいしょ						3回以内(植付前の土壌混和は1回以内)
キャベツ			収穫30日前まで	2回以内		2回以内
	コガネムシ類幼虫	5~10				
カリフラワー ブロッコリー	ケラ、ネキリムシ類	6~9				2回以内(粒剤の生育期の処理は1回以内)
	コガネムシ類幼虫	5~10				
レタス	ケラ、ネキリムシ類	6~9	は種時又は 植付時			2回以内
	コガネムシ類幼虫	5~10	植付時	1回		
はくさい	ケラ、ネキリムシ類	6	は種時			1回
	コガネムシ類幼虫	5~6				
トマト ピーマン とうがらし類	ケラ、ネキリムシ類	6~9	は種時又は 植付時	2回以内		3回以内 (生育期は2回以内)
	コガネムシ類幼虫	5~10	植付時	1回		
きゅうり	タネバエ	5~8	は種時又は 植付時	2回以内		2回以内
	ケラ、ネキリムシ類 ウリハムシ幼虫	6~9				
	コガネムシ類幼虫	5~10				
すいか かぼちゃ メロン	タネバエ	5~8	植付時	1回		4回以内 (粒剤の生育期の処理は3回以内)
	ケラ、ネキリムシ類	6~9				
	ウリハムシ幼虫					
	コガネムシ類幼虫	5~10				
なす	ケラ、ネキリムシ類	6~9	は種時又は 植付時	2回以内		3回以内 (粒剤の生育期の処理は2回以内)
	コガネムシ類幼虫	5~10	植付時	1回		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

1) ダイアジノン粒剤3 (ダイアジノン3.0%粒剤) つづき

作物名	適用病害虫名	使用量 (kg/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む農薬 の総使用回数
だいこん はつかだいこん	ケラ、ネキリムシ類	6～9	は種時	1回	土壌混和	2回以内 (生育期は1回以内)
	タネバエ	5～8				
	コガネムシ類幼虫	5～10				
ねぎ わけぎ あさつき	タネバエ	5～8	は種時又は 植付時	2回以内		2回以内
	コガネムシ類幼虫	5～10	植付時	1回		
たまねぎ	タネバエ、ケラ、 コオロギ	5～8	は種時又は 植付時	2回以内		
	タマネギバエ	3～5	植付時	1回		
	コガネムシ類幼虫	5～10				
いちご		6～9	植付時(仮植床)			
豆類(種実)	ケラ コガネムシ類幼虫 タネバエ	5～9	は種時			だいたいは6回以内(種子粉衣は1回以内、粒剤は5回以内(生育期の処理は4回以内))、あずきは4回以内(種子粉衣は1回以内、は種時の処理は1回以内、生育期の処理は3回以内)、いんげんまめは3回以内(種子粉衣は1回以内、粒剤は2回以内)、らっかせいは1回、上記以外の豆類(種実)は4回以内(種子粉衣は1回以内、粒剤は3回以内)
たばこ	コガネムシ類幼虫 ネキリムシ類 ハリガネムシ	6～9	植付前			1回

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

2) 家庭園芸用ダイアジノン粒剤3 (ダイアジノン3.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量 (g/m ²)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む農薬 の総使用回数	
かんしょ	コガネムシ類幼虫	6~9	植付前及び収 穫30日前まで	3回以内	土壌混和	3回以内 (マイクロカプセル剤の 植付前の処理は1回以内、マイク ロカプセル剤の散布は2回以内、 粒剤の散布は2回以内)	
	ケラ、ネキリムシ類		植付前	1回			
ばれいしょ						3回以内 (植付前の土壌混和は1 回以内)	
キャベツ	ケラ、ネキリムシ類	6~9	収穫30日 前まで	2回以内		2回以内	
カリフラワー	コガネムシ類幼虫					2回以内 (粒剤の生育期の処理は1 回以内)	
ブロッコリー							
	ケラ、ネキリムシ類					は種時又は 植付時	2回以内
レタス	コガネムシ類幼虫	植付前					
はくさい	ケラ、ネキリムシ類	6	は種時	1回		1回	
トマト	コガネムシ類幼虫	6~8	植付時			3回以内 (生育期は2回以内)	
ピーマン							
とうがらし類							
きゅうり	タネバエ、ケラ					2回以内	
すいか	ウリハムシ幼虫					4回以内 (粒剤の生育期の処理は3 回以内)	
かぼちゃ	ネキリムシ類						
メロン	コガネムシ類幼虫						
なす	ケラ、ネキリムシ類					3回以内 (粒剤の生育期の処理は2 回以内)	
	コガネムシ類幼虫						
だいこん	ケラ、ネキリムシ類					は種時	2回以内 (生育期は1回以内)
はつかだいこん	タネバエ						
	コガネムシ類幼虫						
ねぎ	タネバエ	植付時				2回以内	
わけぎ	コガネムシ類幼虫						
あさつき							
たまねぎ	タネバエ	は種時				だいたいは6回以内 (種子粉衣は1 回以内、粒剤は5回以内 (生育期 の処理は4回以内))、あずきは4 回以内 (種子粉衣は1回以内、は 種時の処理は1回以内、生育期の 処理は3回以内)、いんげんまめ は3回以内 (種子粉衣は1回以内、 粒剤は2回以内)、らっかせいは1 回、上記以外の豆類 (種実) は4 回以内 (種子粉衣は1回以内、粒 剤は3回以内)	
	タマネギバエ						
	コガネムシ類幼虫						
	ケラ、コオロギ						
豆類 (種実)	ケラ						
	タネバエ						
	コガネムシ類幼虫						

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

3) ダイアジノン粒剤5 (ダイアジノン5.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量 (kg/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む農 薬の総使用回数
ブルーベリー	コガネムシ類幼虫	6	収穫14日前まで	2回以内	株元土壌混和	2回以内
かんしょ	コガネムシ類幼虫	4~6	収穫30日前まで	3回以内	作付前：全面土壌混和又は作条土壌混和 作物生育中：作条処理して軽く覆土	3回以内（マイクロカプセル剤の植付前の処理は1回以内、マイクロカプセル剤の散布は2回以内、粒剤の散布は2回以内）
ばれいしょ			植付前	1回	全面土壌混和又は作条土壌混和	
キャベツ	コガネムシ類幼虫	6	は種時又は定植時	2回以内	全面土壌混和 土壌表面散布	2回以内
			定植時	1回		
	タネバエ	6	定植時	1回	全面土壌混和 土壌表面散布	
ブロッコリー カリフラワー	コガネムシ類幼虫	4~6	収穫30日前まで	2回以内	作付前：全面土壌混和又は作条土壌混和 作物生育中：作条処理して軽く覆土	2回以内（粒剤の生育期の処理は1回以内）
	ケラ、ネキリムシ類	6	は種時又は定植時	1回	全面土壌混和又は作条土壌混和	
	ネキリムシ類		定植時		土壌表面散布	
レタス	コガネムシ類幼虫	4~6	は種時又は定植時	2回以内	全面土壌混和又は作条土壌混和	2回以内
	ケラ、ネキリムシ類	4~6	定植時	1回		
はくさい	コガネムシ類幼虫	4	定植時	1回	全面土壌混和又は作条土壌混和	1回
	ネキリムシ類	6			土壌表面散布	
トマト ピーマン	ケラ、ネキリムシ類	4~6	は種時又は定植時	2回以内	全面土壌混和又は作条土壌混和	3回以内（生育期は2回以内）
	コガネムシ類幼虫		収穫開始10日前まで	3回以内	作付前：全面土壌混和又は作条土壌混和 作物生育中：作条処理して軽く覆土	
なす	コガネムシ類幼虫	4~6	収穫開始3日前まで	3回以内	作付前：全面土壌混和又は作条土壌混和 作物生育中：作条処理して軽く覆土	3回以内（粒剤の生育期の処理は2回以内）
とうがらし類	ケラ、ネキリムシ類	4~6	は種時又は定植時	2回以内	全面土壌混和又は作条土壌混和	3回以内（生育期は2回以内）
	コガネムシ類幼虫		収穫開始14日前まで	3回以内	作付前：全面土壌混和又は作条土壌混和 作物生育中：作条処理して軽く覆土	
豆類（種実、ただし、だいず、あずき、いんげんまめ、らっかせいを除く）	コガネムシ類幼虫	4~6	収穫60日前まで	3回以内	作付前：全面土壌混和又は作条土壌混和 作物生育中：作条処理して軽く覆土	4回以内（種子粉衣は1回以内、粒剤は3回以内）

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

3) ダイアジノン粒剤5 (ダイアジノン5.0%粒剤) つづき

作物名	適用病害虫名	使用量 (kg/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む農 薬の総使用回数
だいず	コガネムシ類幼虫 タネバエ	4~6	収穫30日前まで	5回以内	作付前：全面土壌混 和又は作条土壌混 和 作物生育中：作条処 理して軽く覆土	6回以内(種子粉衣は1 回以内、粒剤は5回以内 (生育期の処理は4回以 内))
	マメシクイガ カメムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ	6		4回以内	散布	
	フタスジヒメハムシ ネキリムシ類			5回以内	土壌表面散布	
	あずき			タネバエ	4	
いんげんまめ	コガネムシ類幼虫	4~6	収穫60日前まで	4回以内	作付前：全面土壌混 和又は作条土壌混 和 作物生育中：作条処 理して軽く覆	3回以内(種子粉衣は1 回以内、粒剤は2回以 内)
えだまめ	タネバエ	4	は種時	1回	作条土壌混和	6回以内(種子粉衣は1 回以内、粒剤は5回以内 (生育期の処理は4回 以内))
	ネキリムシ類	6	は種前		全面土壌混和又は 作条土壌混和 土壌表面散布	
ねぎ わけぎ あさつき	コガネムシ類幼虫	4~6	は種時又は 定植時	2回以内	全面土壌混和又は 作条土壌混和	2回以内
たまねぎ			収穫30日前まで		作付前：全面土壌混 和又は作条土壌混 和 作物生育中：作条処 理して軽く覆土	
葉たまねぎ	コガネムシ類幼虫	4~6	は種時	1回	全面土壌混和	2回以内(は種時の土壌 混和は1回以内、定植時 の土壌混和は1回以内)
	タネバエ タマネギバエ ケラ、コオロギ	3~5	定植時			
	コガネムシ類幼虫	4~6				
	ほうれんそう	タネバエ	6			
	ヒメクロユスリカ		は種前	土壌混和		
すいか メロン	コガネムシ類幼虫	4~6	収穫14日前まで	4回以内	作付前：全面土壌混 和又は作条土壌混 和 作物生育中：作条処 理して軽く覆土	4回以内(粒剤の生育期 の処理は3回以内)
	ケラ、ネキリムシ類		は種時又は 定植時	2回以内	全面土壌混和又は 作条土壌混和	
にがうり	コガネムシ類 タネバエ ネキリムシ類	6	定植時			2回以内
きゅうり	ケラ、ネキリムシ類 コガネムシ類幼虫 タネバエ	4~6				

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

3) ダイアジノン粒剤5 (ダイアジノン5.0%粒剤) つづき

作物名	適用病害虫名	使用量 (kg/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む 農薬の総使用回数
かぼちゃ	ケラ、ネキリムシ類	4~6	は種時又は 定植時	2回以内	全面土壌混和又は 作条土壌混和	4回以内(粒剤の生育 期の処理は3回以内)
	コガネムシ類幼虫		収穫21日前まで	4回以内	作付前：全面土壌混和 又は作条土壌混和 作物生育中：作条処理 して軽く覆土	
かぶ	キスジノミハムシ	6	収穫45日前まで	2回以内	は種時：作条散布 作物生育中：株元散布	2回以内(生育期は1 回以内)
	ネキリムシ類		出芽時	1回	土壌表面散布	
だいこん はつかだいこん	コガネムシ類幼虫	4~6	は種時		全面土壌混和又は 作条土壌混和	
	ケラ、タネバエ ネキリムシ類				6	
	ネキリムシ類	は種時及び生育 期 但し、収穫 21日前まで	2回以内	は種時：作条土壌混和 作物生育中：株元土壌 混和		
	キスジノミハムシ	は種前	1回	全面土壌混和	2回以内(は種前及び は種時は合計1回以 内、生育期は1回以 内)	
にんじん	ネキリムシ類					
未成熟とうもろこし	アワノメイガ	4~6	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
	ネキリムシ類	6	出芽時	1回	土壌表面散布	
とうもろこし (子実)	アワノメイガ	4~6	収穫60日前まで	2回以内	散布	
飼料用とうもろこし	タマナガヤ	6				
いちご	コガネムシ類幼虫	4~6	植付時(仮植床)	1回	土壌混和	
			定植時(本圃)			
さとうきび	ハリガネムシ類	6	定植時			
非結球あぶらな 科葉菜類(こま つな、みずな、ケ ール、ひろしまな を除く)	ケラ、ネキリムシ類 キスジノミハムシ		は種時		全面土壌混和	1回
こまつな	ネキリムシ類		出芽時		土壌表面散布	
みずな	ケラ、ネキリムシ類 キスジノミハムシ		は種時		全面土壌混和	
			は種時又は定植 時			
ひろしまな	ケラ、ネキリムシ類 キスジノミハムシ		は種時			
	ダイコンハムシ		定植時			
なばな	ネキリムシ類					
なばな類 (はなっこりー、 なばなを除く)	ケラ、ネキリムシ類		は種時			
	コガネムシ類幼虫					
はなっこりー	ネキリムシ類	4	定植時		作条土壌混和	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

3) ダイアジノン粒剤5 (ダイアジノン5.0%粒剤) つづき

作物名	適用病害虫名	使用量 (kg/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含 む農薬の総使用 回数
ふき	フキアブラムシ	4	収穫30日前まで	3回以内	株元散布	3回以内
ふき(ふきのとう)			萌芽前、但し 収穫150日前ま で	2回以内		2回以内
食用ゆり	クロバネキノコバエ類	6	植付時	1回	作条土壤混和	2回以内(植付時 は1回以内、植付 後は1回以内)
たらのめ			植付後、収穫30 日前まで		株元土壤混和	
	ネキリムシ類		種根定植後～ 萌芽前		土壤表面散布	2回以内(萌芽前 は1回以内、萌芽 後は1回以内)
			種根定植後 但し、萌芽後～ 萌芽後30日			
にら		5	定植時		作条土壤混和	1回
もりあざみ		6	は種時		土壤表面散布	
オクラ			収穫60日前まで	2回以内		2回以内
葉にんにく		9	植付前	1回	全面土壤混和	1回
ははこぐさ		6	は種時又は 定植時			
なずな			は種時			
はこべ						
こおにたびらこ						
ごま			は種前			
ごぼう		4	は種時			
みつば	タネバエ	6	は種前			
芝	シバツトガ	6～9	発生初期	4回以内	散布	4回以内
	スジキリヨトウ					
	シバオサゾウムシ成虫					
	コガネムシ類幼虫	9				
桑	ハリガネムシ	6	定植時	1回	植溝土壤混和	1回

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

4) ダイアジノン粒剤10 (ダイアジノン10.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量 (kg/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノン を含む農薬 の総使用回数
だいず	タネバエ	3	は種時	1回	作条土壤混和	6回以内 (種子粉衣 は1回以内、粒剤は 5回以内 (生育期の 処理は4回以内))
	フタスジヒメハムシ		収穫30日前まで	4回以内	無人ヘリコプター による散布	
	マメシクイガ	1.5~3			散布	
	ネキリムシ類	3		5回以内	土壤表面散布	
えだまめ	タネバエ	3	は種時	1回	作条土壤混和	
	ネキリムシ類		収穫30日前まで	5回以内	土壤表面散布	
いんげんまめ	タネバエ	3~5	は種時	1回	作条土壤混和	3回以内 (種子粉衣 は1回以内、粒剤は 2回以内)
ほうれんそう						2回以内 (は種時及 びは種前の土壤混 和は合計1回以内)
だいこん はつかだいこん	ネキリムシ類		3	収穫21日前まで	2回以内	土壤表面散布
はくさい	ネキリムシ類	3	定植時	1回	全面土壤混和	1回
キャベツ					土壤表面散布	
レタス	タネバエ	5			全面土壤混和	2回以内
ねぎ わけぎ あさつき	ネキリムシ類	3	は種時		全面土壤混和又 は作条土壤混和	
たまねぎ	タネバエ	3	定植時	2回以内	土壤表面散布	2回以内 (は種前及びは種 時は合計1回以内、 生育期は1回以内)
にんじん	ネキリムシ類		は種時及び生育 期ただし収穫90 日前まで			
カリフラワー ブロッコリー			収穫30日前まで		土壤表面散布	2回以内 (粒剤の生 育期の処理は1回 以内)
芝	シバツトガ、ケラ		発生初期	4回以内	散布	4回以内

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

5) ダイアジノン水和剤34 (ダイアジノン34.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノン を含む農薬の 総使用回数
りんご	モモシロクイガ、ナシヒメシクイ、 リンゴハナゾウムシ、 モンシロドクガ、リンゴフユシヤク、 リンゴワタムシ	1000	200～ 700 L/10a	収穫30日前まで	4回以内	散布	4回以内
	クワコナカイガラムシ若齢幼虫、 ハマキムシ類、アブラムシ類、 オオワタコナカイガラムシ若齢幼虫、 ナシグンバイ、キンモンホソガ、 アメリカシロヒトリ	1000～1500					
日本なし 西洋なし	コナカイガラムシ類若齢幼虫、 ハマキムシ類、アブラムシ類、 ナシグンバイ、アメリカシロヒトリ	1000		収穫14日前まで	6回以内		6回以内(休眠 期は1回以内)
	モンシロドクガ、シクイムシ類						
もも	シクイムシ類	1000～1500		収穫前日まで	4回以内		4回以内
	クワコナカイガラムシ若齢幼虫、 ハマキムシ類、アブラムシ類						
ネクタリン	シクイムシ類	1000		収穫21日前まで	3回以内		3回以内
	クワコナカイガラムシ若齢幼虫、 ハマキムシ類、アブラムシ類	1000～1500					
おうとう	アブラムシ類、ハマキムシ類 ナシグンバイ、アメリカシロヒトリ	1000		収穫14日前まで	2回以内		2回以内
	ウメシロカイガラムシ						
小粒核果類 (すももを除く)	シクイムシ類	1000～1500		収穫21日前まで	4回以内		4回以内
	アブラムシ類、ハマキムシ類、 アメリカシロヒトリ						
すもも	シクイムシ類	1000					
大粒種ぶどう	クワコナカイガラムシ若齢幼虫、 ハマキムシ類、アブラムシ類、 ミドリヒメヨコバイ	1000～1500		収穫30日前まで	2回以内		2回以内
かき	オオワタコナカイガラムシ若齢幼虫、 ハマキムシ類、 アメリカシロヒトリ	1000		収穫45日前まで	4回以内		4回以内

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

5) ダイアジノン水和剤34 (ダイアジノン34.0%水和剤) つづき

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノン を含む農薬の 総使用回数
キャベツ	キボシマルトビムシ	600	100～ 300 L/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	2回以内
	コナガ、アブラムシ類	2000					
	キスジノミハムシ、アオムシ	1000					
ブロッコリー カリフラワー	キボシマルトビムシ	600					2回以内(粒剤 の生育期の処 理は1回以内)
	コナガ、アブラムシ類	2000					
	キスジノミハムシ、アオムシ	1000					
ほうれんそう	アブラムシ類	2000		収穫21日前まで			2回以内(は種 時及びは種前 の土壌混和は 合計1回以内)
ねぎ	アザミウマ類	600～1000					
	ネギハモグリバエ	600					
たまねぎ	アブラムシ類	2000					2回以内
	アザミウマ類	1000					
にんにく	ネギコガ			収穫14日前まで	3回以内		3回以内
しろうり	キボシマルトビムシ	600			4回以内		4回以内
	アブラムシ類	2000					
	ハダニ類	600～1000					
すいか メロン	キボシマルトビムシ	600					4回以内(粒剤 の生育期の処 理は3回以内)
	アブラムシ類	2000					
	ハダニ類	600～1000					
かぼちゃ	キボシマルトビムシ	600		収穫21日前まで			
	アブラムシ類	2000					
	ハダニ類	600～1000					
なす (露地栽培)	テントウムシダマシ、 アブラムシ類	2000		収穫開始3日 前まで	3回以内		3回以内(粒剤 の生育期の処 理は2回以内)
	ハダニ類	1000					
	ばれいしょ	テントウムシダマシ、 アブラムシ類					
樹木類	アメリカシロヒトリ	1000～1500	200～ 700 L/10a	発生初期	4回以内		4回以内

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

6) ダイアジノン乳剤40(ダイアジノン40.0%乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む 農薬の総使用回数
キャベツ	アオムシ、コナガ、 アブラムシ類	1000	100～ 300 L/10a	収穫30日 前まで	2回以内	散布	2回以内
	キスジノミハムシ	1200					
ブロッコリー カリフラワー	アオムシ、コナガ、 アブラムシ類	1000					2回以内(粒剤の生育 期の処理は1回以内)
	キスジノミハムシ	1200					
	キボシマルトビムシ	700					
ほうれんそう	アブラムシ類	1000		収穫21日 前まで			2回以内(は種時及び は種前の土壌混和は 合計1回以内)
ねぎ わけぎ	アブラムシ類、 ネギコガ						
	アザミウマ類	700～1200					
	ネギハモグリバエ	1000～ 2000					
タマネギバエ	700						
あさつき	アブラムシ類、 ネギコガ	1000		収穫30日 前まで			
	アザミウマ類	700～1200					
	ネギハモグリバエ	1000～ 2000					
	タマネギバエ	700					
たまねぎ	アブラムシ類	1000		収穫21日 前まで			
	アザミウマ類	700～1200					
	ネギハモグリバエ	1000～ 2000					
	タマネギバエ	700					
なす (露地栽培)	アブラムシ類、 テントウムシダマシ	1000		収穫開始3日 前まで	3回以内		3回以内(粒剤の生育 期の処理は2回以内)
	ハダニ類	1000～ 2000					
ばれいしょ	アブラムシ類、 テントウムシダマシ	1000		収穫7日 前まで			3回以内(植付前の土 壌混和は1回以内)
さやいんげん	アブラムシ類			収穫開始7日 前まで	2回以内		3回以内(種子粉衣は 1回以内、乳剤は2回 以内)
	ハダニ類	1000～ 2000					

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

6) ダイアジノン乳剤40(ダイアジノン40.0%乳剤) つづき

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む 農薬の総使用回数
さやえんどう 実えんどう	アブラムシ類	1000	100～	収穫開始14日 前まで	3回以内	散布	4回以内(種子粉衣は 1回以内、乳剤は3回 以内)
	ハダニ類	1000～ 2000	300 L/10a				
すいか メロン	アブラムシ類	1000		収穫14日 前まで	4回以内		4回以内(粒剤の生育 期の処理は3回以内)
	ハダニ類	1000～ 2000					
	キボシマルトビムシ	700					
きゅうり	アブラムシ類	1000		植付時	1回		2回以内
	ハダニ類	1000～ 2000					
芝	コガネムシ類幼虫	800	3L/m ²	発生初期	4回以内	4回以内	
	シバツトガ、 スジキリヨトウ	1000	0.3～ 1L/m ²				
	シバオサゾウムシ		0.3～ 0.5L /m ²				

7) ショットガン(ダイアジノン40.0%乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ダイアジノン を含む農薬 の総使用回数
ねぎ わけぎ あさつき たまねぎ	ネギアザミウマ	1000	200L/10a	収穫21日 前まで	2回以内	散布	2回以内
				収穫30日 前まで			
			200～300 L/10a	収穫21日 前まで			
茶	クワシロカイガラムシ		1000L/10a	最終摘採後 ～12月まで	1回		1回
芝	シバツトガ スジキリヨトウ シバオサゾウムシ成虫		0.3L/m ²	発生初期	4回以内		4回以内
	コガネムシ類幼虫		3L/m ²				
さくら	アメリカシロヒトリ		—				
つつじ類	ツツジグンバイ		0.15～0.3 L/m ²		2回以内	2回以内	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

8) ダイアジノンS Lゾル(ダイアジノン25.0%マイクロカプセル剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む農薬の総使用回数	
かんしょ	ナカジロシタバ	1000	100~300 L/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	3回以内 (マイクロカプセル剤の 植付前の処理は 1回以内、マイクロ カプセル剤の散布は 2回以内、粒剤の 散布は2回以内)	
	コガネムシ類幼虫	50	100L/10a	植付前	1回	全面土壌混和又は 畝立て前作条散布		
		25				全面土壌混和		
		25~50						
		50				は種前		
		25				定植前(本圃)		
	いちご	50		植付時(仮植床)				
		500	1000L/10a	ポット育苗時		育苗ポット灌注		
	つつじ類	25~50	100L/10a	植付時		全面土壌混和		
	ひのき(苗畑) すぎ(苗畑)	100	200~400 L/10a	植付前				
さくら	アメリカシロヒトリ	1000	200~700 L/10a	発生初期	4回以内	散布	4回以内	
芝	シバツトガ スジキリヨトウ シバオサゾウムシ成虫		0.3L/m ²					
	ケラ	250	1L/m ²					
	シバオサゾウムシ幼虫 コガネムシ類幼虫		0.7~1L/m ²					土壌注入
	コガネムシ類幼虫		1L/m ²					コアリング時 (目土前)
	25	0.1L/m ²	張り芝前		土壌混和			
樹木類		16g/培土 m ²	400~2000 mL/培土m ²	鉢上げ時 又は鉢代え時	1回	培土混和		

9) タネサンGT (ダイアジノン20.0%・チウラム30.0%粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む農薬の総使用回数	チウラムを含む農薬の総使用回数
いんげんまめ	タネバエ、 立枯病(フザリウム菌)、 立枯病(リゾクトニア菌)、 立枯病(ピシウム菌)、 立枯病(コルティシウム菌)	種子重量 の0.3%	は種前	1回	種子に均 一に粉衣 する。	3回以内 (種子粉衣は1 回以内、粒剤は 2回以内)	1回
あずき	タネバエ	種子重量 の0.3~ 0.5%				4回以内 (種子粉衣は1 回以内、は種時 の処理は1回以 内、生育期の処 理は3回以内)	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

10) ユーグサイドD (ダイアジノン5.0%・メチルオイゲノール80.0%油剤)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む農薬の総使用回数	メチルオイゲノールを含む農薬の総使用回数
パパイヤ マンゴー かんきつ バンジロウ ピーマン もも	ミカンコミバエ 発生地域全域	ミカンコミバエ					①1×3cmの綿棒に本剤約2gを吸収させ発生地域(村落、果樹園、畑等)1ha当り5~10本の割合で樹木等に吊り下げて設置する。 ②直径6~7mm長さ150mmの純綿ロープに本剤2.5kgを吸収させた後、5~10cmに切断して発生地域(村落、果樹園、畑等を除く)に1ha当り6~12本の割合で航空機から投下する。 ③本剤を4.5×4.5×0.9cmのテックス板1枚当り10g(±2g)又は6×6×0.9cmのテックス板1枚当り約25gを吸収させて発生地域(村落、果樹園、畑を除く)に航空機から投下するか、村落、果樹園、畑の樹木等に吊り下げて設置する。(1~3/1ha)		

11) エチメトン粒剤6 (ダイアジノン3.0%、エチルチオメトン3.0%)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	エチルチオメトンを含む農薬の総使用回数	ダイアジノンを含む農薬の総使用回数
だいこん	キスジノミハムシ タネバエ アオムシ コナガ アブラムシ類 ダイコンバエ	6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	1回	2回以内 (生育期は1回以内)
ばれいしょ	アブラムシ類 ハリガネムシ類 ナストビハムシ		植付前		植溝土壌混和		
畑わさび	ワサビクダアザミウマ		収穫75日 前まで		2回以内		
たばこ	アブラムシ類	6~9kg/10a	移植前 土寄時	1回	植溝土壌混和 土壌面に均一に 散布し土寄せす る。	1回	1回
	ネキリムシ類		移植前		植溝土壌混和		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

1 2) 一農ダイアジノン乳剤40 (ダイアジノン40.0%乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む 農薬の総使用回数
キャベツ	アオムシ、コナガ、 アブラムシ類	1000	100～ 300 L/10a	収穫30日 前まで	2回以内	散布	2回以内
	キスジノミハムシ	1200					
ブロッコリー カリフラワー	アオムシ、コナガ、 アブラムシ類	1000		2回以内(粒剤の生育 期の処理は1回以内)			
	キスジノミハムシ	1200					
	キボシマルトビムシ	700					
ほうれんそう	アブラムシ類	1000		収穫21日 前まで			2回以内(は種時及び は種前の土壌混和は 合計1回以内)
ねぎ わけぎ	アブラムシ類、 ネギコガ			2回以内			
	アザミウマ類	700～1200					
	ネギハモグリバエ	1000～ 2000					
	タマネギバエ	700					
あさつき	アブラムシ類、 ネギコガ	1000	収穫30日 前まで				
	アザミウマ類	700～1200					
	ネギハモグリバエ	1000～ 2000					
	タマネギバエ	700					
たまねぎ	アブラムシ類	1000	収穫21日 前まで				
	アザミウマ類	700～1200					
	ネギハモグリバエ	1000～ 2000					
	タマネギバエ	700					
なす (露地栽培)	アブラムシ類、 テントウムシダマシ	1000	収穫開始3日 前まで	3回以内	3回以内(粒剤の生育 期の処理は2回以内)		
	ハダニ類	1000～ 2000					
ばれいしょ	アブラムシ類、 テントウムシダマシ	1000	収穫7日前 まで	3回以内(植付前の土 壌混和は1回以内)			
さやいんげん	アブラムシ類		収穫開始7日 前まで	2回以内	3回以内(種子粉衣は 1回以内、乳剤は2回 以内)		
	ハダニ類	1000～ 2000					

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

12) 一農ダイアジノン乳剤40(ダイアジノン40.0%乳剤) つづき

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む 農薬の総使用回数	
さやえんどう 実えんどう	アブラムシ類	1000	100～ 300 L/10a	収穫開始14日 前まで	3回以内	散布	4回以内(種子粉衣は 1回以内、乳剤は3回 以内)	
	ハダニ類	1000～ 2000						
すいか メロン	アブラムシ類	1000		収穫14日 前まで	4回以内			4回以内(粒剤の生育 期の処理は3回以内)
	ハダニ類	1000～ 2000						
	キボシマルトビムシ	700						
きゅうり	アブラムシ類	1000		植付時	1回			2回以内
	ハダニ類	1000～ 2000						
さとうきび	カンジャコノミナガカメシ	800～		収穫90日まで	2回以内			
	カンジャワタアブラムシ タカラマルカイガラムシ クサゼミ	1000						
芝	コガネムシ類幼虫	800	3L/m ²	発生初期	4回以内		4回以内	
	シバツトガ、 スジキリヨトウ	1000	0.3～ 1L/m ²					
	シバオサゾウムシ		0.3～ 0.5L /m ²					

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

13) ランダイヤ粒剤(ダイアジノン3.0%、メソミル1.0%)

作物名	適用 病害虫名	使用量 (kg/a)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノン を含む農薬の 総使用回数	メソミルを 含む農薬の 総使用回数
はくさい	ネキリムシ類	4~6	は種時	1回	作条土壤混和	1回	2回以内(は 種時の土壤 混和は1回 以内)
キャベツ		4~6	は種時、定植時 及び生育初期 但し、収穫30日 前まで	2回以内		2回以内	3回以内
レタス		4~6	植付時	1回		1回	2回以内(植 付時の土壤 混和は1回 以内)
リーフレタス		6					1回
だいこん	ネキリムシ類、 キスジノミハムシ	4~6	は種時			2回以内(生育 期は1回以 内)	2回以内(は 種時の土壤 混和は1回 以内)
かんしょ	コガネムシ類幼虫	6~9	植付時及び生育 期、但し、収穫 30日前まで	3回以内	植付時:作条処 理土壤混和 生育期:作条処 理	3回以内(マイ クロカプセル 剤の植付前 の処理は1回 以内、マイク ロカプセル剤 の散布は2回 以内、粒剤の 散布は2回以 内)	5回以内
	ハリガネムシ類	9	植付時 但し、収穫30日 前まで	1回	作条処理土壤 混和		
	ハスモンヨトウ、 ナカジロシタバ	4~6	収穫30日 前まで	2回以内	散布		
いちご	コガネムシ類幼虫	6~9	植付時(仮植床)	1回	土壤混和	2回以内	4回以内
にんじん	ネキリムシ類	6	は種前		全面処理土壤 混和	2回以内(は種 前及びは種時 は合計1回以 内、生育期は1 回以内)	2回以内(は 種前の土壤 混和は1回 以内)
芝	スジキリヨトウ、 シバツトガ、 コガネムシ類幼虫、 シバオサゾウムシ	6~10	発生初期	4回以内	散布	4回以内	4回以内

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

1 4) スケルサイドA乳剤(ダイアジノン1.0%、マシン油80.0%、マラソン1.0%)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノン を含む農薬の 総使用回数	マシン油を 含む農薬の 総使用回数	マラソンを 含む農薬の 総使用回数
なし	ハダニ類	50	200～ 700L/10a	冬期 (発芽前)	1回	散布	6回以内(休眠 期は1回以内)	-	5回以内(休眠 期は1回以内)

1 5) オンダイアエース粒剤(ダイアジノン5.0%、ベンフラカルブ3.0%)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ダイアジノン を含む農薬の 総使用回数	ベンフラカルブ を含む農薬の 総使用回数	
キャベツ	コナガ、 アブラムシ類	6kg/10a (2g/株)	定植時	1回	植穴土壌 混和	2回以内	1回	
	コナガ、 アブラムシ類、 ネキリムシ類	1g/株	育苗期後 半(但し、 収穫30日 前まで)		株元散布			
はくさい	コナガ、 アオムシ、 アブラムシ類	6kg/10a (2g/株)	定植時		植穴土壌 混和	1回		
ブロッコリー	コナガ、 ネキリムシ類	1g/株	育苗期後 半		株元散布	2回以内(粒剤 の生育期の処 理は1回以内)		
ばれいしょ	アブラムシ類	6kg/10a	植付時		植溝土壌 混和	3回以内(植付 前の土壌混和 1回以内)		
ねぎ	ネギアザミウマ、 ネキリムシ類	6kg/10a	定植時			2回以内		2回以内(定植時 の処理及び生育 期の株元散布は 合計1回以内、散 布は1回以内)
すいか メロン	アブラムシ類	3kg/10a			作条土壌 混和	4回以内(粒剤 の生育期の処 理は3回以内)		1回
なす		3kg/10a				3回以内(粒剤 の生育期の処 理は2回以内)		
だいこん	キスジノミハムシ、 ネキリムシ類	3～6kg/10a	は種時		播溝土壌 混和	2回以内(生育 期は1回以内)		
さとうきび	コガネムシ類、 ハリガネムシ類	6kg/10a	植付時		植溝土壌 混和	2回以内		
きく	アブラムシ類	9kg/10a	定植時		1回	4回以内		
つつじ類	コガネムシ類	2g/株		植穴土壌 混和	2回以内			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

16) 粉衣用ペアーカスミンD(ダイアジノン25.0%、カスガマイシン3.4%、チウラム25.0%)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む農薬の総使用回数	カスガマイシンを含む農薬の総使用回数	チウラムを含む農薬の総使用回数
豆類(種実、ただし、だいず、あずき、いんげんまめ、らっかせいを除く)	タバエ、苗立枯(リゾグニア菌)	種子重量の0.3~0.5%	は種前	1回	種子粉衣	4回以内(種子粉衣は1回以内、粒剤は3回以内)	1回	1回
	だいず	斑点細菌病						
えだまめ	タバエ、苗立枯(リゾグニア菌)	種子重量の0.3~0.5%						
	あずき	褐斑細菌病						
いんげんまめ	かさ枯病	種子重量の0.3%						
	タバエ、苗立枯(リゾグニア菌)	種子重量の0.3~0.5%						
さやいんげん	かさ枯病	種子重量の0.3%						
	タバエ、苗立枯(リゾグニア菌)	種子重量の0.3~0.5%						
豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげんを除く)		種子重量の0.3~0.5%						

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

2. 使用上の注意事項

1) 畑作物の土壌害虫防除に使用する場合（粒剤）

- ①使用薬量は全面処理の場合の薬量であるので、作条処理（植え溝処理）の場合は処理面積に応じて薬量を減ずること。
- ②は種前、は種時、植付前又は植付時に土壌全面又は作条（植え溝）に処理し土壌とよく混和すること。
なお、タネバエおよびコガネムシ類幼虫に対して作物の生育期に使用する場合は作条処理（植え溝処理）し軽く覆土すること。
- ③ビニールハウス等の同一施設内において、収穫期が異なる作物を栽培している場合、本剤を土壌表面散布で使用しないこと。
- ④たばこに使用する場合植穴処理では薬害を生ずることがあるのでさけ、作条の土壌になるべく幅広く散布し土壌とよく混和してから植付けること。
たばこは薬害を生じやすいので散布及び混和むらがないように特に注意すること。（粒剤3）

2) タネバエ、タマネギバエ、ダイコンバエ防除の場合は、播種又は移植前に作条もしくは圃場全面に散布する。なお、作条施用の場合は散布後土壌と軽く混ぜ合わせる。（粒剤）

3) いちごに対しては仮植床のみの使用とし、本圃では使用しないこと。（粒剤3）

4) とうもろこしに使用する場合（粒剤）

- ①とうもろこしのアワノメイガの防除に使用する場合は、出来るだけ穂、茎葉にかかるとともに散布すること。（粒剤5）
- ②とうもろこし及び飼料用とうもろこしに茎葉散布する場合には、部分的に薬剤が集まると薬害を生じる恐れがあるので、葉の付け根など1ヶ所に固まることのないように均一に散布すること。降雨や朝露などで葉上に水滴があると薬害を助長するので、朝夕や降雨の前後には使用しないこと。（粒剤5）

5) 芝のシバツトガ、スジキリヨトウ、シバオサゾウムシの防除に使用する場合は、土壌表面、芝表面にまきむらのないよう散布すること。（粒剤5）

6) 蚕に対して影響があるので、付近に桑園がある場合には、かからないように注意して散布すること。（水和剤、乳剤）

7) ミツバチに対し影響があるので以下のことに注意すること。

- ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。また、空中散布の場合、周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
（水和剤、乳剤、マイクロカプセル剤）
- ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。（水和剤、乳剤）
- ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意すること。また、空中散布の場合、都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。
（水和剤、乳剤、マイクロカプセル剤）
- ④ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。（粒剤）

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

- 8) 散布中又は散布当日は散布区域内に小児やペットが立ち入らないように注意すること。(家庭園芸用粒剤3)
- 9) 芝に使用する場合
 - ①コガネムシ類幼虫防除には散布液が土壌中に十分しみこむように散布し、シバツトガ、スジキリヨトウ、シバオサゾウムシの防除には芝表面、地際にまきむらのないよう散布すること。(乳剤)
 - ②コガネムシ類(幼虫)、シバオサゾウムシ(幼虫)に対して土壌注入処理をする場合には、農薬を高圧噴射できるインジェクターを使用すること。
(マイクロブセル剤)
- 10) 貯蔵中に分離することがあるので、使用直前に容器をよく振って使用すること。(乳剤、マイクロブセル剤)
- 11) 本剤の散布薬液は希釈調製後できるだけ速やかに使用すること。(乳剤)
希釈調製後に静置しておいた場合は、散布前に十分攪拌すること。
(マイクロブセル剤)
- 12) 果樹に使用する場合
 - ①散布液調製後はそのまま放置せず、出来るだけ速やかに散布すること。(水和剤)
 - ②石灰硫黄合剤との混用はさける。(乳剤、水和剤)
 - ③りんごに使用する場合、落花20日後頃までの散布は薬害のおそれがあるのでさけること(水和剤)
- 13) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせ所定量の範囲内で調節すること。(マイクロブセル剤)
- 14) 誘殺板は必ず1枚ごとに危険物であることを表示し、また防除地域内の住民が誘殺板、綿棒にさわったり、持ち去ることがないように注意を周知させること。(ユゲサイトD)
- 15) 村落や果樹園内の誘殺板や綿棒などの設置は、子供の手が届かぬように地上1.5m以上の高さの木陰に高くつるすこと。(ユゲサイトD)
- 16) 子供が遊ぶ場所等には、誘殺板を配置しないこと。(ユゲサイトD)
- 17) 樹木などにつり下げた綿棒及び誘殺板は、約1ヶ月間隔で新しいものと取り換えること。(ユゲサイトD)
- 18) 誘殺ロープ、誘殺板などの大きさ、1ha当りの投下及び配置数は第7項に示したものを標準とするが、害虫の生息密度などの防除地域の状況に応じて適宜増減すること。(ユゲサイトD)
- 19) 本剤は広い地域におけるミカンコミバエの生息密度の低下を主目的として使用するもので、防除対象地域はミカンコミバエの加害作物栽培圃場だけでなく、それらを含むできるだけ広範な地域で長期間連続して使用することが望ましい。本剤を小面積で使用しても、大きな効果は期待できない。
(ユゲサイトD)
- 20) 鹿等の生息する地域では、これら動物の誤食を防ぐ為に、誘殺板を金属製の網に包んで投下及び設置する。(ユゲサイトD)

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

21) 共通項目

- ①使用量に合わせ秤量し、使い切ること。(粒剤、ユゲサイト®D)
- ②使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。(水和剤、乳剤、マイクロブセル剤)
- ③適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。
なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。(粒剤)
- ④本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。(粒剤、乳剤、マイクロブセル剤、ユゲサイト®D)

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

3. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

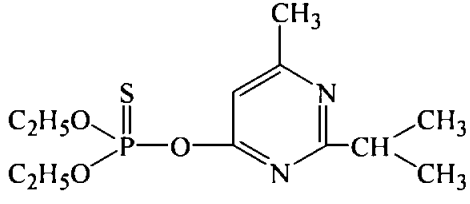
- 1-1) 水産動植物（甲殻類、ドジョウ、ボラ）に影響を及ぼす恐れがあるので、（魚鉢等の水槽）、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。比較的低濃度でも魚が平衡失調等を起こすので、養殖池等周辺での使用は避けること。（粒剤、乳剤、EW剤、水和剤）
- 1-2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。（マイクロブセル剤）
- 2-1) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。（乳剤、EW剤、水和剤、マイクロブセル剤）
- 2-2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。（粒剤）
- 3) 本剤は魚介類に影響を及ぼすので、空中より投下する場合は十分注意すること。（ユゲサイトD）

V. 残留性及び環境中予測濃度関係

1. 作物残留

(1) 分析法 :

(2) 分析対象化合物

項目	親化合物
化学名	(2-isopropyl-4-methylpyrimidinyl-6)-diethylthiophosphate
構造式	
分子式	C ₁₂ H ₂₁ N ₂ O ₃ PS
分子量	304.35
記号	ダイアジノン

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

(3) 残留試験結果

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 30								
とうもろこし (未成熟とう もろこし(種 実))	粒剤(5%) 9kg/10a 散布	日植防東北 (スイート系 ゴールデン クロスバンダム)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	27	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		日植防研究所 (ハニーバンダム)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	14	0.005	0.005	<0.005	<0.005
			2	21	0.018	0.016	0.011	0.011
			2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 30								
とうもろこし (乾燥種実)	粒剤(5%) 9kg/10a 散布	日植防東北 (スイート系 ゴールデン クロスバンダム)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	49	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	55	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		日植防研究所 (ハニーバンダム)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	36	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	43	0.028	0.026	0.023	0.023
			2	50	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 161								
とうもろこし (未成熟とう もろこし(種 実))	粒剤(5%) 6kg/10a 散布	千葉県農試 (ビーター-235)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	7	<0.005	<0.005	0.007	0.006
			2	14	<0.005	<0.005	0.008	0.008
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		長野県 植防・南信 (早生ビーター ーコン)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	7	0.006	0.006	0.017	0.017
			2	14	0.005	0.005	0.005	0.005
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 162								
とうもろこし (乾燥種実)	粒剤(5%) 6kg/10a 散布	岩手県植防 (ロイヤルバンダム)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	45	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	59	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	106	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		長野県 中信農試 (P-3352)	0	—	0.010	0.010	0.008	0.008
			2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	45	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	60	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	109	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 163								
とうもろこし (未成熟とう もろこし(種 実))	粒剤(5%) 6kg/10a 散布	長野県 植防・松代 (ビーターコン)	0	—			<0.005	<0.005
			2	7			<0.005	<0.005
			2	14			<0.005	<0.005
			2	21			<0.005	<0.005
		福井県植防 (キャンベラ90)	0	—			<0.005	<0.005
			2	7			<0.005	<0.005
			2	14			<0.005	<0.005
			2	21			<0.005	<0.005
No. 164								
とうもろこし (未成熟とう もろこし(種 実))	粒剤(5%) 6kg/10a 散布	青森県植防 (サエーショコラ)	0	—	<0.005	<0.005		
			2	7	<0.005	<0.005		
			2	14	<0.005	<0.005		
			2	21	<0.005	<0.005		
No. 162								
とうもろこし (青刈り)	粒剤(5%) 6kg/10a 散布	岩手県植防 (コイダマリンダ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	54	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		長野県中信農 試(P-3352)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	48	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 19								
かんしょ (塊根)	粉剤(3%) 6kg/10a 植付前土壌混和1回 生育期散布3回	茨城県農試 (金時)	0	—			<0.001	<0.001
			4	50			0.002	0.002
		埼玉県農試 (紅赤)	0	—			<0.001	<0.001
			4	82			<0.001	<0.001
No. 19								
かんしょ (蔓)	粉剤(3%) 6kg/10a 植付前土壌混和1回 生育期散布3回	茨城県農試 (金時)	0	—			<0.002	<0.002
			4	50			0.007	0.006
		埼玉県農試 (紅赤)	0	—			0.007	0.007
			4	82			0.006	0.006
No. 79								
かんしょ (塊根)	粉剤(3%) 5kg/10a 散布	日植防牛久 (紅高系)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		日植防高知 (土佐紅)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 18								
かんしょ (塊根)	粒剤(5%) 3kg/10a 畦内土壌混和1回 散布2回	埼玉県農試 (紅赤)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
			3	27	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		千葉県農試 (紅赤)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
			3	11	<0.001	<0.001	0.001	0.001
No. 60								
かんしょ (塊根)	粒剤(5%) 6kg/10a 植付前土壌混和1回 生育期土壌散布2回	日植防牛久 (紅高系)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			4	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		徳島県農試 (鳴門金時)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			4	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分析結果(ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					ダイアジノン		ダイアジノン			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
No. 32										
かんしょ (塊根)	乳剤(40%) 5倍 15L/10a 土壌注入	日植防牛久 (紅高系)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	30	0.023	0.022	<0.005	<0.005		
			3	45	0.006	0.006	<0.005	<0.005		
			3	60	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
		埼玉県園試 (ベニアズマ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	45	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	60	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
No. 33										
かんしょ (塊根)	マイクロバセル剤(25%) 50倍 100L/10a 全面土壌混和	日植防牛久 (紅高系)	0	—	<0.005	<0.005	<0.003	<0.003		
			1	160	<0.005	<0.005	0.004	0.004		
		東京都農試・ 八丈(七福)	0	—	<0.005	<0.005	<0.003	<0.003		
			1	161	<0.005	<0.005	0.006	0.006		
No. 104										
かんしょ (塊根)	マイクロバセル剤(25%) 25倍 100L/10a 全面土壌混和	茨城県 農業総合センター (ベニアズマ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			1	112	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
		日植防宮崎 (宮崎紅)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			1	120	<0.005	<0.005	0.007	0.006		
No. 112										
かんしょ (塊根)	マイクロバセル剤(25%) 25倍 100L/10a 全面土壌混和 1回 1000倍 300L/10a 散布 2回	日植防研究所 (紅あずま)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
		日植防高知 (土佐紅)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
No.										
ばれいしょ (塊茎)	粒剤(5%) 6kg/10a 植付時土壌混和1回 乳剤(40%) 1000倍 200L/10a 散布3回	鯉淵学園 (男爵)	0	—			<0.001	<0.001		
			4	7			<0.001	<0.001		
			4	14			<0.001	<0.001		
			4	14			<0.001	<0.001		
		神奈川県 農総研 (男爵)	0	—			<0.001	<0.001		
			4	7			0.001	0.001		
			4	13			<0.001	<0.001		
			4	13			<0.001	<0.001		
No. 111										
ばれいしょ (塊茎)	粒剤(5%) 6kg/10a 植付前土壌混和1回 乳剤(40%) 1000倍 200L/10a 散布3回	北海道植防 (メークイン)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			4	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			4	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
		福島県植防 (だんしゃく)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			4	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			4	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
		No. 86								
ばれいしょ (塊茎)	水和剤(34%) 2000倍 200L/10a 散布	日植防研究所 (男爵)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
		石川県植防 (男爵)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 105								
さといも (塊茎)	マイコカブ セル剤(25%) 50倍 100L/10a 全面土壌混和	千葉県農試 (土垂)	0	—	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
			1	206	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
			2	136	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
		宮崎県総農試 (赤目大吉)	0	—	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
			1	196	<0.004	<0.004	<0.005	<0.005
			2	154	0.005	0.004	<0.005	<0.005
No. 166								
さといも (塊茎)	マイコカブ セル剤(25%) 25倍 100L/10a 全面土壌混和	日植防研究所 (土垂れ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	153	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		日植防高知 (赤芽系)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	166	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 152								
やまのいも (塊茎)	マイコカブ セル剤(25%) 25倍 100L/10a 全面土壌混和	日植防牛久 (姫神)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	179	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		石川県植防 (南部とつくり形長芋)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	204	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 11								
えだまめ (子実)	粉剤(3%) 9kg/10a 散布	日植防研究所 (奥原早生)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
			3	14	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
			3	28	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		長野県農試 (フジミジロ)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
			2	11	0.001	0.001	0.002	0.002
			3	11	0.025	0.023	0.002	0.002
No. 11								
えだまめ (さや)	粉剤(3%) 9kg/10a 散布	日植防研究所 (奥原早生)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			3	14	0.088	0.087	0.098	0.078
			3	28	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		長野県農試 (フジミジロ)	0	—	0.004	0.004	<0.002	<0.002
			2	11	0.176	0.169	0.565	0.558
			3	11	3.46	3.27	0.530	0.465
No. 52								
えだまめ (さや)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和1回 散布 3回	長野県中信 (ホウレイ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			5	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		石川県植防 (エンレイ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			5	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
えだまめ (さや)	粉剤(25%) 種子重量の0.5% 種子粉衣	岩手県植防疫 (サヤムスメ)	0	—			<0.01	<0.01
			1	102			<0.01	<0.01
		日植防研究所 (白獅子)	0	—			<0.01	<0.01
			1	78			<0.01	<0.01

1) データ所有者

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 11								
だいず (乾燥子実)	粉剤(3%) 9kg/10a 散布	日植防研究所 (奥原早生)	0	—	<0.001	<0.001	<0.002	<0.002
			3	43	0.002	0.002	<0.002	<0.002
			3	57	<0.001	<0.001	<0.002	<0.002
		長野県農試 (フジミジロ)	0	—	<0.001	<0.001	<0.002	<0.002
			3	15	0.003	0.002	<0.002	<0.002
			3	29	0.002	0.002	<0.002	<0.002
No. 53								
だいず (乾燥子実)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和1回 散布 4回	長野県中信 (ホウレイ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			5	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		石川県植防 (エンレイ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			5	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
だいず (種実)	粉剤(3%) 3kg/10a 散布	日植防研究所 (早生振袖)	0	—			0.002	0.002
			1	88			0.003	0.003
だいず (乾燥子実)	粉剤(25%) 種子重量の0.5% 種子粉衣	福井県植防 (おおだるま)	0	—			<0.01	<0.01
			1	143			<0.01	<0.01
		岐阜県植防 (フクユタカ)	0	—			<0.01	<0.01
			1	115			<0.01	<0.01
No. 54								
あずき (乾燥子実)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	福島県植防 (赤あずき)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			4	60	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		長野県農総試 (大納言)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			4	62	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
あずき (乾燥子実)	粉剤(20%) 0.5%種子粉衣 粒剤(5%) 6kg/10a 土壌表面散布 3回	北海道立中央 農試(きたお とめ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.02	<0.02
			4	60	<0.005	<0.005	<0.02	<0.02
		北海道植防 (キタノオト メ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.02	<0.02
			4	60	<0.005	<0.005	<0.02	<0.02
あずき (乾燥子実)	粉剤(25%) 種子重量の0.5% 種子粉衣	北海道植防 (エリモシヨ ウズ)	0	—			<0.01	<0.01
			1	125			<0.01	<0.01
		滋賀県植防疫 (京都大納言)	0	—			<0.01	<0.01
			1	99			<0.01	<0.01

1) データ所有者

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 10								
らっかせい (乾燥子実)	粉剤(3%) a) 6kg/10a b) 9kg/10a は種前土壌混和1回+ 生育期散布3回	茨城県農試 (千葉半立)	0 4 a) 4 b)	— 74 74			<0.002 <0.002 <0.002	<0.002 <0.002 <0.002
No. 9								
らっかせい (乾燥子実)	粒剤(3%) a) 6kg/10a b) 9kg/10a 茨城：は種前土壌混和 1回+生育期散布3回 静岡：株元土壌混和	茨城県農試 (千葉半立) 静岡県農試 (千葉半立)	0 4 a) 4 b) 0 1 a) 1 b) 2 a)	— 74 74 — 69 69 57	<0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003	<0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003	<0.002 <0.002 <0.002 <0.002 <0.002 <0.002 <0.002	<0.002 <0.002 <0.002 <0.002 <0.002 <0.002 <0.002
No. 34								
らっかせい (乾燥種実)	マイクロカプセル剤(25%) 50倍 100L/10a 全面土壌混和	日植防牛久 (ナカテユカ) 千葉県農試 (アスマユカ)	0 1 0 1	— 129 — 135	<0.005 <0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005 <0.005
No. 158								
えごま (種子)	粒剤(5%) 6kg/10a 移植時土壌表面散 布	宮城県 大崎農改センター (晩生種(白))	0 1	— 123			<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
No. 159								
白ごま (種実)	粒剤(5%) 6kg/10a は種時土壌混和	茨城県 水戸農改センター (白ゴマ)	0 1 1 1	— 87 94 96			<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01
黒ごま (種実)	粒剤(5%) 6kg/10a は種時土壌混和	茨城県 水戸農改センター (黒ゴマ)	0 1 1 1	— 94 99 105			<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01
No. 103								
いんげん まめ (乾燥子実)	a) 粉剤(20%) 0.3% 湿粉衣 粉剤(3%) 8kg/10a 散布 粒剤(5%) 6kg/10a 散布 は種時作条処理1回、 生育期作条処理2回	山形県農試 最北支場 (金時)	0 a) 4 a) 4 b)	— 60 60	<0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005
	b) 粉剤(20%) 0.3% 湿粉衣 粒剤(5%) 6kg/10a は種時作条処理1回、 生育期作条処理2回	長野県農試 原村試地 (金時)	0 a) 4 a) 4 b)	— 60 60	<0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 50								
さやいんげん (さや)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	福井県農試 (江戸川)	0 2	— 60	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
		滋賀県立短大 農(フォーム)	0 2	— 60	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
No. 62								
さやいんげん (さや)	乳剤(40%) 1000倍 200L/10a 散布	福島県植防 (モロッコ)	0 3 3	— 7 14	<0.005 0.008 <0.005	<0.005 0.008 <0.005	<0.005 0.009 <0.005	<0.005 0.008 <0.005
		石川県 営農センター (江戸川)	0 3 3	— 6 13	<0.005 0.023 <0.005	<0.005 0.022 <0.005	<0.005 0.032 0.005	<0.005 0.031 0.005
		岐阜県植防 (モロッコ)	0 1	— 77			<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
		鹿児島県農業 環境協会 (ベストクロ ップキセラ)	0 1	— 63			<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
No. 51								
さやえんどう (さや)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	徳島県農試 (仁村赤花)	0 4	— 60	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
		鹿児島県農試 (仁村赤花)	0 4	— 60	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
No. 70								
さやえんどう (さや)	乳剤(40%) 1000倍 a) 222L/10a 散布 b) 250L/10a 散布	千葉県 暖地園試 (市原早生)	0 3 ^{a)} 3 ^{a)}	— 7 14	<0.005 0.069 0.009	<0.005 0.068 0.008	<0.005 0.087 0.010	<0.005 0.084 0.010
		和歌山県植防 (オランダ)	0 3 ^{b)} 3 ^{b)}	— 7 14	0.021 0.152 0.017	0.020 0.151 0.016	0.010 0.147 0.024	0.010 0.142 0.022
		日植防宮崎 (オランダ 大莢豌豆)	0 1	— 99			<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
		鹿児島県農業 環境協会 (ニムラサラ ダスナップ)	0 1	— 91			<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
平成21年度								

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 58								
きゅうり (果実)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	茨城鯉淵学園 (夏秋節成)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	33	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		群馬県園試 (貴婦人ニゴライ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	31	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 89								
きゅうり (果実)	乳剤(40%) 1000倍 200L/10a 散布	徳島県農試 (ときわ光3号 P型)	0	—	0.001	0.001	0.002	0.002
			3	10	0.002	0.002	0.012	0.012
			3	15	0.002	0.002	0.003	0.003
			3	20	0.002	0.002	0.001	0.001
		宮崎県総農試 (久留米落合 H型)	0	—	0.001	0.001	0.001	0.001
			3	10	0.005	0.005	0.007	0.007
			3	31	0.001	0.001	0.001	0.001
			3	38	0.001	0.001	0.001	0.001
No. 109								
きゅうり (果実)	油剤(2%) 20L/10a 1回 (1穴あたり2ml、 30cm間隔の千鳥 状に点注処理)	長野県 植防・南信 (トップグリーン)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	62	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	69	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	76	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		日植防高知 (シャープン)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	56	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	63	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	70	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 114								
きゅうり (果実)	油剤(2%) 20L/10a 1回 (1穴あたり2ml、 30cm間隔の千鳥 状に点注処理) 粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和 1回	日植防研究所 (トップグリーン)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	29	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	36	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	43	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		日植防高知 (シャープ1)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	34	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	41	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	48	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 22								
きゅうり (果実)	蒸散剤(17%) 0.2g/m ³	神奈川農総研 (春秋2号 黄金抑制)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
			1	1	0.532	0.487	0.591	0.520
			1	3	0.298	0.292	0.297	0.254
			1	7	0.084	0.082	0.033	0.032
			3	1	1.051	0.958	0.680	0.670
			3	3	0.376	0.376	0.450	0.400
			3	7	0.124	0.124	0.056	0.054
			鳥取県農試 (サカタ交配 クロサンゴ)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001
		1		1	0.212	0.206	0.228	0.216
		1		3	0.152	0.145	0.109	0.098
		1		7	0.118	0.115	0.048	0.044
		3		1	0.324	0.310	0.260	0.258
		3		3	0.092	0.085	0.068	0.089
		3		7	0.008	0.008	0.016	0.012

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年 度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					ダイアジノン		ダイアジノン		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
きゅうり (果実)	くん煙剤 鳥取：1.5g/10m ³ 熊本：a)1本/10m ³ b)乳剤(40%)1000倍 250L/10a	鳥取県農試 (黒さんご)	0	—	<0.001	<0.001	<0.005	<0.005	
			3	1	0.006	0.006	0.022	0.020	
			3	3	0.009	0.009	0.012	0.008	
			3	8	<0.001	<0.001	0.007	0.006	
			4	1	0.013	0.012	0.014	0.014	
			4	3	0.006	0.005	0.008	0.008	
			4	8	<0.001	<0.001	0.007	0.006	
			熊本 (品種不明)	0	—	0.152	0.148	<0.005	<0.005
		3 ^{a)}		1	0.060	0.058	0.026	0.025	
		3 ^{a)}		3	0.036	0.035	0.018	0.016	
		3 ^{a)}		7	0.005	0.004	0.022	0.021	
		4 ^{a)}		1	0.019	0.018	0.015	0.012	
		4 ^{a)}		3	0.030	0.030	<0.005	<0.005	
		4 ^{a)}		7	0.010	0.010	0.010	0.009	
		3 ^{b)}	1	0.660	0.644				
3 ^{b)}	3	0.484	0.468						
3 ^{b)}	7	0.050	0.050						
No. 59									
すいか (果肉)	粒剤(5%) 6kg/10a 植付前土壌混和 生育期散布	日植防牛久 (縞玉マックス)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			4	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		日植防宮崎 (小玉)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			4	14	<0.005	<0.005	0.005	0.005	
No. 80									
すいか (果肉)	乳剤(40%) 700倍 ^{a)} 85-200L/10a 散布 ^{b)} 200L/10a 散布	日植防研究所 (紅トップ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			4 ^{a)}	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		石川県植防協 (紅小玉)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			4 ^{b)}	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
No. 118									
すいか (果実)	^{a)} 油剤(2%) 20L/10a 1回 { 1穴あたり2ml、 30cm間隔の千鳥 状に点注処理 } ^{b)} マイコロカフ セル剤(25%) 50倍 100L/10a 全面土壌混和 1回 ^{c)} 乳剤(40%) 700倍 200L/10a 散布 3回 ^{d)} 粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和 3回	石川県 砂丘地農試 (マダ-ホ-ール)	0	0	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			a, b, c	5	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				5	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				5	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			a, b, d	5	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				5	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				5	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				5	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		日植防高知 (天竜2号)	0	0	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			a, b, c	5	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				5	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				5	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			a, b, d	5	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				5	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	5	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					ダイアジノン		ダイアジノン			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
No. 165										
すいか (果実)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和2回 乳剤(10%) 1000倍 200L/10a 2回 散布	日植防協会 (縞王)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001		
			4	14	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001		
			4	21	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001		
		長野県農試 (縞王マックス)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001		
			4	14	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001		
			4	21	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001		
No. 39										
メロン (果実)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	日植防研究所 (アンデス)	0	—	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004		
			4	14	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004		
		新潟県園試 (イエローワン)	0	—	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004		
			4	14	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004		
No. 71										
メロン (果実)	乳剤(40%) 700倍希釈 a) 200L/10a 散布 b) 300L/10a 散布	石川県 砂丘地農試 (7-ルサイト夏系 1号)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005		
			4 ^{a)}	14	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005		
			4 ^{a)}	21	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005		
		日植防高知 (静岡)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005		
			4 ^{b)}	14	<0.01	<0.01	0.005	0.005		
			4 ^{b)}	21	<0.01	<0.01	0.005	0.005		
No. 115										
メロン (果実)	a) 油剤(2%) 20L/10a 1回 〔1穴あたり2ml、 30cm間隔の千鳥 状に点注処理〕 b) マイクロカブセル剤(25%) 50倍 100L/10a 全面土壌混和 1回 c) 乳剤(40%) 700倍 247-300L/10a 散布 3回 d) 粒剤(5%) 6kg/10a 作条処理3回	日植防研究所 (クインシー)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			a, b, c	5	14	0.005	0.005	<0.005	<0.005	
				5	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			a, b, d	5	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
					5	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		日植防宮崎 (7-ルサイト春Ⅱ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			a, b, c	5	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				5	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
a, b, d	5		14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			5	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
No. 38										
かぼちゃ (果実)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	日植防半久 (えびす)	0	—	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004		
			4	14	0.009	0.008	0.007	0.006		
		日植防宮崎 (えびす)	0	—	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004		
			4	14	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004		
No. 76										
かぼちゃ (果実)	水和剤(34%) 600倍 a) 180L/10a 散布 b) 250L/10a 散布	日植防研究所 (えびす)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005		
			4 ^{a)}	14	0.02	0.02	0.035	0.034		
			4 ^{a)}	21	<0.01	<0.01	0.016	0.016		
		群馬県農総試 (えびす)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005		
			4 ^{b)}	14	0.05	0.05	0.024	0.024		
			4 ^{b)}	21	<0.01	<0.01	0.007	0.006		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 172								
トマト (果実) (施設)	粒剤(5%) 6kg/10a 定植時作条土壌混 和1回 生育期作条処理軽 く覆土2回	シテック・リサーチ・ ジャパン(株) (桃太郎8)	0	—	<0.005	<0.005		
			3	1	<0.005	<0.005		
			3	3	<0.005	<0.005		
			3	7	<0.005	<0.005		
		3	14	<0.005	<0.005			
		油日アグロリサーチ (株) (ハウス桃太郎)	0	—	<0.005	<0.005		
			3	1	<0.005	<0.005		
			3	3	<0.005	<0.005		
3	7		<0.005	<0.005				
3	14	<0.005	<0.005					
No. 45								
なす (果実) (施設)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	日植防牛久 (千両2号)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		鹿児島県農試 (黒陽)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	3	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 87								
なす (果実) (露地)	乳剤(40%) 1000倍 200L/10a 散布	日植防研究所 (千両2号)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	3	0.006	0.006	0.013	0.013
			3	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		長野県 植防・松代 (早生大丸)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	3	0.007	0.007	0.013	0.012
			3	7	<0.005	<0.005	0.008	0.008
No. 130								
オクラ (果実)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌表面散布	高知県農技セ ンター(香美 郡) (ア-リーファイブ)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	27	<0.01	<0.01		
		高知県農技セ ンター(高岡 郡) (ア-リーファイブ)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	55	<0.01	<0.01		
No. 142								
ししとう (果実)	粒剤(5%) 6kg/10a 植付時全面土壌混 和1回 生育期作条処理2回	岩手県植防 (ししほまれ)	0	—	<0.005	<0.005		
			3	1	0.017	0.016		
			3	3	0.025	0.024		
			3	8	0.006	0.006		
		岐阜県植防 (タキイ)	0	—	<0.005	<0.005		
			3	1	0.010	0.010		
			3	3	0.012	0.012		
			3	7	0.009	0.009		
No. 143								
とうがらし (果実)	粒剤(5%) 10kg/10a 定植時作条土壌混 和1回 生育期作条処理2回	岐阜県植防 (伏見甘長)	0	—	<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01		
			3	21	<0.01	<0.01		
		日植防宮崎 (伏見甘長)	0	—	<0.01	<0.01		
			3	7	0.05	0.05		
			3	14	<0.01	<0.01		
			3	21	<0.01	<0.01		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					ダイアジノン		ダイアジノン			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
No. 41										
ピーマン (果実)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	日植防研究所 (京みどり)	0 3	— 10	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005		
		長野県 農試・原村 (新さきかき2号)	0 3	— 10	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005		
No. 15										
キャベツ (葉球)	粒剤(5%) 6kg/10a 散布	日植防研究所 (たから甘らん)	0 3 3 3	— 14 21 28	<0.001 <0.001 <0.001 <0.001	<0.001 <0.001 <0.001 <0.001	<0.001 0.002 0.002 0.002	<0.001 0.002 0.002 0.002		
			山梨県農試 (S.E)	0 3 3 3	— 14 21 27	<0.001 <0.001 <0.001 <0.001	<0.001 <0.001 <0.001 <0.001	<0.001 0.002 <0.001 <0.001	<0.001 0.002 <0.001 <0.001	
				No. 66						
		キャベツ (葉球)		水和剤(34%) 600倍 a) 130~200L/10a 散布 b) 慣行処理量散布	日植防牛久 (末広)	0 2 ^{a)}	— 30	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
長野県須坂 (YRSE)	0 2 ^{b)}		— 28		<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005		
No. 26										
キャベツ (葉球)	乳剤(40%) 1000倍 a) 150~200L/10a 散布 3回 b) 150L/10a 散布1回 200L/10a 散布2回	日植防研究所 (坂田2号)	0 3 ^{a)} 3 ^{a)} 3 ^{a)}	— 21 30 45	<0.001 <0.001 <0.001 <0.001	<0.001 <0.001 <0.001 <0.001	<0.001 <0.001 <0.001 <0.001	<0.001 <0.001 <0.001 <0.001		
			群馬県園試 (長岡交配 四季穫)	0 3 ^{b)} 3 ^{b)} 3 ^{b)}	— 21 30 45	<0.001 0.025 0.018 0.004	<0.001 0.025 0.018 0.004	<0.001 0.031 0.005 0.002	<0.001 0.030 0.005 0.002	
				No. 81						
		キャベツ (葉球)		乳剤(40%) 700倍 a) 70~100L/10a 散 布 b) 200L/10a 散布	日植防研究所 (YR早生23号)	0 2 ^{a)}	— 30	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
日植防高知 (秋蒔極早生)	0 2 ^{b)}		— 30		<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005		
キャベツ (葉球)	粒剤(5%) 2g/株 植穴土壌混和 1回 乳剤(40%) 1000倍 200L/10a 散布 1回	日植防高知 (金系201号)	0 2 2	— 30 37	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01		
			日植防宮崎 (若峰)	0 2 2	— 30 37	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					ダイアジノン		ダイアジノン		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
No. 151									
キャベツ (葉球)	粒剤(10%) 5kg/10a 定植時土壌混和 乳剤(40%) 1000倍 a) 250L/10a 散布 b) 200L/10a 散布	群馬県植防 (金系201)	0	—	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01	
			2 ^{a)}	21	0.020	0.019	<0.01	<0.01	
			2 ^{a)}	30	0.007	0.006	<0.01	<0.01	
			2 ^{a)}	45	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01	
		長野県松代 (YRSE)	0	—	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01	
			2 ^{b)}	21	0.006	0.006	<0.01	<0.01	
			2 ^{b)}	30	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01	
			2 ^{b)}	45	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01	
No. 102									
はくさい (茎葉)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	新潟県高冷地農 技センター (弘法)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			1	67	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		愛知県植防 (無双)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			1	78	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
はくさい (葉球)	粒剤(5%) 2g/株 植穴土壌混和	日植防高知 (玉杯)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			1	94	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			1	101	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		日植防宮崎 (玉杯)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			1	61	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			1	68	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		No. 117							
		はくさい (茎葉)	油剤(2%) 20L/10a 1回 〔1穴あたり2ml、 30cm間隔の千鳥 状に点注処理〕 粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和1回	日植防研究所 (あこがれ)	0	0	<0.005	<0.005	<0.005
2	58				<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
2	65				<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
長野県農総試 (優黄)	0			0	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	2			58	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
	2			65	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
No. 55									
はくさい (茎葉)	乳剤(40%) 600倍 200~300L/10a	日植防牛久 (あこがれ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	14	0.032	0.032	0.039	0.038	
		長野県 中信農試 (空海65)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	14	0.097	0.092	0.060	0.056	
No. 169									
ひろしまな (茎葉)	粒剤(5%) 6kg/10a 定植時全面土壌混和	島根県 邑智郡川本町 (不明)	0	—	<0.01	<0.01			
			1	62	<0.01	<0.01			
			1	69	<0.01	<0.01			
			1	76	<0.01	<0.01			
		島根県 江津市桜江町 (不明)	0	—	<0.01	<0.01			
			1	62	<0.01	<0.01			
			1	69	<0.01	<0.01			
			1	76	<0.01	<0.01			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 171								
なばな (茎葉) 平成24年度	粒剤(5%) 6kg/10a 定植時全面土壌混和	岐阜県 岐阜市又丸 (在来種)	0	—	<0.01	<0.01		
			1	40	<0.01	<0.01		
			1	47	<0.01	<0.01		
			1	54	<0.01	<0.01		
		岐阜県 海津市海津町 (在来種)	0	—	<0.01	<0.01		
			1	34	<0.01	<0.01		
			1	41	<0.01	<0.01		
			1	48	<0.01	<0.01		
No. 17								
だいこん (根部)	粒剤(5%) 6kg/10a 散布	日植防研究所 (都大根二号)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
			3	14	0.010	0.010	0.012	0.011
			3	21	0.002	0.002	0.002	0.002
			3	28	0.007	0.007	0.005	0.005
		神奈川県園試 (三浦都)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
			3	14	0.011	0.010	0.003	0.003
			3	21	0.017	0.015	0.006	0.005
			3	28	0.012	0.012	0.008	0.007
No. 17								
だいこん (葉部)	粒剤(5%) 6kg/10a 散布	日植防研究所 (都大根二号)	0	—	<0.001	<0.001	<0.002	<0.002
			3	14	0.066	0.066	0.310	0.260
			3	21	0.096	0.090	0.580	0.560
			3	28	0.012	0.010	0.260	0.220
		神奈川県園試 (三浦都)	0	—	0.009	0.008	0.005	0.005
			3	14	6.72	6.26	4.65	4.56
			3	21	3.60	3.47	3.32	3.24
			3	28	4.38	4.21	2.95	2.84
No. 91								
だいこん (根部)	粒剤(5%) 6kg/10a は種前土壌混和1回 生育期散布2回	日植防研究所 (おふくろ)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			3	45	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		石川県砂丘地 農試(源助)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			3	43	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
No. 91								
だいこん (葉部)	粒剤(5%) 6kg/10a は種前土壌混和1回 生育期散布2回	日植防研究所 (おふくろ)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			3	45	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		石川県砂丘地 農試(源助)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			3	43	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
No. 91								
だいこん (つまみ菜)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	日植防研究所 (おふくろ)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			1	14	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		石川県砂丘地 農試(源助)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			1	16	<0.002	<0.002	0.002	0.002
No. 91								
だいこん (間引菜)	粒剤(5%) 6kg/10a は種前土壌混和1回 生育期土壌表面散 布1回	日植防研究所 (おふくろ)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			2	14	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		石川県砂丘地 農試(源助)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
			2	14	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 99								
だいこん (根部)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	青森県 畑作園芸試 (耐病総太り)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		岐阜県植防 (耐病総太り)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 99								
だいこん (葉部)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	青森県 畑作園芸試 (耐病総太り)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		岐阜県植防 (耐病総太り)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	21	0.005	0.005	0.005	0.005
			2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 154								
だいこん (根部)	粒剤(5%) 6kg/10a は種時土壌混和 生育期土壌表面散布	青森県植防 (耐病総太り)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	14	0.007	0.007	<0.005	<0.005
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		石川県植防 (なつつかさ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	14	0.009	0.008	<0.005	<0.005
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 154								
だいこん (葉部)	粒剤(5%) 6kg/10a は種時土壌混和 生育期土壌表面散布	青森県植防 (耐病総太り)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	14	0.008	0.008	0.010	0.009
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		石川県植防 (なつつかさ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	14	0.008	0.008	0.010	0.009
			2	21	0.009	0.008	<0.005	<0.005
			2	28	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					ダイアジノン		ダイアジノン			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
No. 7										
だいこん (根部)	水和剤(45%) 1000倍 200L/10a 散布	日植防研究所 (みの早生)	0	—			<0.001	<0.001		
			2	10			0.010	0.009		
			4	10			0.011	0.008		
		鳥取県農試 (時無大根)	0	—			<0.001	<0.001		
			2	7			<0.001	<0.001		
			2	15			<0.001	<0.001		
			4	7			<0.001	<0.001		
4	15			<0.001	<0.001					
No. 7										
だいこん (葉部)	水和剤(45%) 1000倍 200L/10a 散布	日植防研究所 (みの早生)	0	—			<0.002	<0.002		
			2	10			0.228	0.208		
			4	10			0.238	0.237		
		鳥取県農試 (時無大根)	0	—			<0.002	<0.002		
			2	7			0.826	0.742		
			2	15			<0.002	<0.002		
			4	7			0.613	0.592		
4	15			<0.002	<0.002					
No. 21										
だいこん (根部)	乳剤(40%) 1000倍 200L/10a 散布	茨城県植防 (美濃早生)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001		
			3	14	0.001	0.001	0.004	0.004		
			3	21	0.002	0.002	0.002	0.002		
			4	14	0.003	0.002	0.003	0.003		
		4	21	0.002	0.002	0.002	0.002			
		神奈川県園試 (三浦郡)	0	—			0.001	0.001	<0.001	<0.001
			3	14			0.005	0.005	0.001	0.001
			3	21			0.002	0.002	0.001	0.001
			4	14			0.004	0.004	0.004	0.004
		4	21			0.006	0.006	0.001	0.001	
		No. 21								
		だいこん (葉部)	乳剤(40%) 1000倍 200L/10a 散布	茨城県植防 (美濃早生)	0	—	<0.001	<0.001	<0.002	<0.002
3	14				0.008	0.007	0.021	0.020		
3	21				0.009	0.008	0.022	0.021		
4	14				0.011	0.011	0.070	0.069		
4	21			0.008	0.007	0.049	0.048			
神奈川県園試 (三浦郡)	0			—			0.006	0.005	0.005	0.005
	3			14			1.31	1.17	1.29	1.20
	3			21			0.490	0.451	0.83	0.78
	4			14			2.32	2.26	1.54	1.47
4	21					1.24	1.19	1.07	1.00	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 144								
はつかだいこん (葉部)	粒剤(5%) 6kg/10a は種時全面土壌混和 生育期作条処理	岐阜県植防 (フレンドレックファ ースト)	0	—	<0.005	<0.005		
			2	14	<0.005	<0.005		
			2	21	<0.005	<0.005		
			2	30	<0.005	<0.005		
		三重県植防 (フレンドレックファ ースト)	0	—	<0.005	<0.005		
			2	14	<0.005	<0.005		
			2	21	<0.005	<0.005		
			2	30	<0.005	<0.005		
No. 144								
はつかだいこん (根部)	粒剤(5%) 6kg/10a は種時全面土壌混和 生育期作条処理	岐阜県 植防 (フレンドレックファ ースト)	0	—	<0.005	<0.005		
			2	14	<0.005	<0.005		
			2	21	<0.005	<0.005		
			2	30	<0.005	<0.005		
		三重県 植防 (フレンドレックファ ースト)	0	—	<0.005	<0.005		
			2	14	<0.005	<0.005		
			2	21	<0.005	<0.005		
			2	30	<0.005	<0.005		
No. 141								
かぶ (葉部)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌表面散布 は種時 1回 生育期 1回	滋賀県 農総センター (早生大蕪) (平成16年度)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	0.05	0.05	0.04	0.04
			2	30	0.05	0.05	0.03	0.03
			2	45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		福岡県農総試 (白盃) (平成15年度)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	0.13	0.13	0.03	0.04
			2	30	0.05	0.05	0.03	0.03
			2	45	<0.01	<0.01	0.01	0.01
No. 141								
かぶ (根部)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌表面散布 は種時 1回 生育期 1回	滋賀県 農総センター (早生大蕪) (平成16年度)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	<0.01	<0.01	0.01	0.01
			2	30	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		福岡県農総試 (白盃) (平成15年度)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			2	30	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 146								
畑わさび (花・花茎部)	粒剤(3%) 6kg/10a 土壌散布	島根県農技セ ンター(津和 野町) (島根3号)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	42	0.50	0.50		
			2	56	0.14	0.14		
			2	70	0.01	0.01		
			2	84	<0.01	<0.01		
		山口県農業試 験場(岩国市) (島根3号)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	42	<0.01	<0.01		
			2	56	<0.01	<0.01		
			2	70	<0.01	<0.01		
			2	84	<0.01	<0.01		
No. 146								
畑わさび (茎葉部)	粒剤(3%) 6kg/10a 土壌散布	島根県農技セ ンター (津和野町) (島根3号)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	42	0.72	0.70		
			2	56	0.57	0.54		
			2	70	0.05	0.05		
			2	84	0.03	0.03		
		山口県農業試 験場(岩国市) (島根3号)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	42	0.01	0.01		
			2	56	0.01	0.01		
			2	70	<0.01	<0.01		
			2	84	<0.01	<0.01		
No. 146								
畑わさび (根・根茎部)	粒剤(3%) 6kg/10a 土壌散布	島根県農技セ ンター(津和 野町) (島根3号)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	42	0.59	0.58		
			2	56	0.26	0.25		
			2	70	0.05	0.05		
			2	84	0.04	0.04		
		山口県農業試 験場(岩国市) (島根3号)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	42	0.01	0.01		
			2	56	0.01	0.01		
			2	70	<0.01	<0.01		
			2	84	<0.01	<0.01		
No. 44								
ブロッコリー (花蕾)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	長野県中信 農試(シャスター)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		静岡県 農・海岸砂地 (中生緑花や菜)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	31	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 57								
ブロッコリー (花蕾)	乳剤(40%) 600倍 200L/10a 散布	三重県植防協 (グリーンビューティ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		日植防宮崎 (緑嶺)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					ダイアジノン		ダイアジノン		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
No. 61									
カブチク (花蕾)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	千葉県暖地園 試(新雪) (平成元年度)	0 2	— 30	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	
		静岡県 農・海岸砂地 (スノドリレス) (平成2年度)	0 2	— 30	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	
No. 64									
カブチク (花蕾)	乳剤(40%) 600倍 a) 200L/10a 散布 b) 250L/10a 散布	千葉県暖地園 試(新雪) (平成元年度)	0 2 ^{a)}	— 30	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	
		静岡県 農・海岸砂地 (スノドリレス) (平成2年度)	0 2 ^{b)}	— 30	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	
No. 14									
いちご (果実)	粒剤(3%) 10kg/10a 植穴処理	神奈川県総農試 (ダナー)	0 1	— 210	<0.001 <0.001	<0.001 <0.001	<0.001 <0.001	<0.001 <0.001	
		神奈川県園試 (宝交早生)	0 1	— 223	<0.001 <0.001	<0.001 <0.001	<0.001 <0.001	<0.001 <0.001	
No. 92									
いちご (果実)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和 仮植床 1回 本圃 1回	日植防研究所 (宝交早生)	0 2	— 180	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.001 <0.001	<0.001 <0.001	
		埼玉県植防 (ダナー)	0 2	— 145	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.001 <0.001	<0.001 <0.001	
No. 35									
いちご (果実)	マイクロカプセル剤(25%) 50倍希釈 100L/10a 仮植床全面土壌混和	福島県植防 (麗紅)	0 1	— 239	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	
		奈良県植防 (宝交早生)	0 1	— 232	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	
No. 113									
いちご (果実)	マイクロカプセル剤(25%) 25倍希釈 100L/10a 全面土壌混和	長野県 植防・南信 (章姫)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			1	97	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			1	104	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			1	111	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		三重県 科学振興センター 農技センター (三系4号)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	97	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
いちご (果実)	油剤(2%) 20L/10a 1回 (1穴あたり2ml、 30cm間隔の千鳥 状に点注処理)	岐阜県植防 (女峰)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			1	126	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			1	133	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			1	140	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		三重県植防 (三系4)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	144	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
1	151	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
1	158	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 116								
いちご (果実)	^{a)} 油剤(2%) 20~20.9L/10a 1回 〔1穴あたり2ml、 30cm間隔の千鳥 状に点注処理〕 ^{b)} マイクロカプセル剤(25%) 500倍 1000L/10a ポット灌注 1回 ^{c)} マイクロカプセル剤(25%) 25倍 100L/10a 本圃土壌混和 1回 ^{d)} 粒剤(5%) 6kg/10a 本圃土壌混和 1回	岐阜県植防 (女峰)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			a, b, c					
			3	89	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	96	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	103	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			a, b, d					
		3	89	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		3	96	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		3	103	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		日植防宮崎 (とよのか)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			a, b, c					
			3	61	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
3	68		<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
3	75		<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
a, b, d								
3	61	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
3	68	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
3	75	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
No. 129								
ブルーベリー (果実)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	奈良農技セン ター(榛原町) (ホームベル)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	14	<0.01	<0.01		
			2	21	<0.01	<0.01		
			2	28	<0.01	<0.01		
		奈良農技セン ター(奈良市) (プレミア)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	14	<0.01	<0.01		
			2	21	<0.01	<0.01		
			2	28	<0.01	<0.01		
No. 42								
ねぎ (茎葉)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	日植防牛久 (清滝)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	111	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		兵庫県 中農技センター (細形九条葱)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	85	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 84								
ねぎ (茎葉)	水和剤(34%) 600倍 ^{a)} 200L/10a 散布 ^{b)} 500L/10a 散布	長野県 植防・松代 (九条ねぎ)	0	—	<0.005	<0.005	0.006	0.006
			2 ^{a)}	21	0.009	0.008	<0.005	<0.005
		兵庫県植防 (細形九条)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2 ^{b)}	21	0.025	0.024	0.015	0.014
No. 56								
ねぎ (茎葉)	乳剤(40%) 600倍 ^{a)} 400L/10a 散布 ^{b)} 200L/10a 散布	長野県総農試 (九条ねぎ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2 ^{a)}	7	0.061	0.060	0.027	0.024
			2 ^{a)}	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		日植防高知 (夏ねぎ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2 ^{b)}	6	0.144	0.143	0.161	0.154
			2 ^{b)}	19	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 168								
ねぎ (茎葉)	乳剤(40%) 700倍 191L/10a 散布2回	日植防茨城 (越谷黒一本 太葱)	0	—	<0.005	<0.005		
			2	14	0.026	0.026		
			2	21	0.007	0.006		
			2	30	<0.005	<0.005		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 145								
わけぎ (茎葉)	粒剤(5%) 6kg/10a 定植時全土壌混和 生育期条土壌混和 乳剤(40%) 600倍希釈 2回 a) 300L/10a 散布 b) 240L/10a 散布	熊本県 農研センター (在来種)	0	—	<0.005	<0.005		
			4 ^{a)}	14	0.009	0.008		
			1 ^{a)}	21	<0.005	<0.005		
			4 ^{a)}	30	<0.005	<0.005		
		日植防宮崎 (在来種)	0	—	<0.005	<0.005		
			4 ^{b)}	14	0.006	0.006		
4 ^{b)}	21		<0.005	<0.005				
4 ^{b)}	30	<0.005	<0.005					
No. 148								
あさつき (茎葉)	粒剤(5%) 6kg/10a 定植時全土壌混和 生育期条土壌混和 乳剤(40%) 600倍 200L/10a 散布 2回	日植防研究所 (在来種)	0	—	<0.005	<0.005		
			4	14	0.409	0.408		
			4	21	0.165	0.164		
			4	30	0.011	0.010		
		石川県植防 (在来種)	0	—	<0.005	<0.005		
			4	14	0.181	0.181		
			4	21	0.051	0.049		
			4	30	0.008	0.008		
No. 90								
たまねぎ (鱗茎)	粉剤(3%) 9kg/10a 散布	日植防研究所 (OL黄)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		長野県 植防・松代 (斉藤10号)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 8								
たまねぎ (鱗茎)	粒剤(3%) 5kg/10a 散布	静岡県農試 (貝塚早生)	0	—			<0.001	<0.001
			1	161			<0.001	<0.001
			1	226			<0.001	<0.001
		香川県農試 (淡路中高)	0	—			<0.001	<0.001
1	215				<0.001	<0.001		
1	276				<0.001	<0.001		
たまねぎ (鱗茎)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌表面散布	日植防研究所 (泉州中高)	0	—			<0.002	<0.002
			2	30			<0.002	<0.002
			2	40			<0.002	<0.002
		静岡県農試 (泉州黄)	0	—			<0.001	<0.001
			2	35			0.001	0.001
			2	45			<0.001	<0.001
No. 77								
たまねぎ (鱗茎)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	日植防高知 (OK黄)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		日植防宮崎 (改良秀玉1号)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 20								
たまねぎ (鱗茎)	乳剤(40%) 1000倍 a) 120L/10a 散布 b) 180L/10a 散布	日植防研究所 (泉州黄)	0	—	<0.001	<0.001	0.001	0.001
			2 ^{b)}	21	<0.001	<0.001	0.002	0.002
		兵庫県農試 (O.L.)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
			2 ^{a)}	20	<0.001	<0.001	0.003	0.002

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					ダイアジノン		ダイアジノン		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
No. 153									
たまねぎ (鱗茎)	a) 粒剤(5%) 6kg/10a 定植時 作条土壌混和 1回 乳剤(40%) 700倍 200L/10a 生育期 散布 2回 b) 粒剤(5%) 6kg/10a 定植時・生育期 作条土壌混和 3回	長野県 植防・松代 (甘70)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3 ^{a)}	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3 ^{a)}	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3 ^{a)}	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3 ^{b)}	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3 ^{b)}	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3 ^{b)}	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3 ^{b)}	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		兵庫県植防 (もみじ3号)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3 ^{a)}	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3 ^{a)}	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3 ^{a)}	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3 ^{b)}	14	0.008	0.008	<0.005	<0.005	
			3 ^{b)}	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
3 ^{b)}	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005				
No. 133									
葉たまねぎ (鱗茎・茎葉)	粒剤(5%) 6kg/10 土壌混和	千葉農技研セ ンター(長生) (ソニック)	0	—	<0.01	<0.01			
			2	95	<0.01	<0.01			
		千葉農技研セ ンター(大網 白里町) (ソニック)	0	—	<0.01	<0.01			
			2	113	<0.01	<0.01			
No. 13									
にんじん (根部)	粒剤(5%) 6kg/10a 散布	長野県農高 (鮮紅大長)	0	—	0.050	0.051	0.015	0.014	
			1	162	0.013	0.013	0.012	0.012	
		埼玉県園試 (小泉冬越5寸)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
			1	128	0.005	0.004	0.004	0.004	
No. 98									
にんじん (根部)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	日植防研究所 (べここし5寸)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			1	115	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		日植防高知 (夏蒔無繭5寸)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			1	87	0.005	0.005	<0.005	<0.005	
No. 125									
にんじん (根部)	粒剤(10%) 4.5kg/10a は種時土壌混和 出芽7日後土壌表面 散布	北海道植防 (向陽2号)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	49	0.020	0.020	0.020	0.019	
			2	56	0.012	0.012	0.009	0.009	
			2	63	0.009	0.009	0.009	0.008	
		新潟県植防 (ひとみ5寸)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	85	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	92	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	99	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
No. 127									
もりあざみ (根部)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌表面散布	岐阜県農技研 (中津川市) (在来種)	0	—	<0.005	<0.005			
			1	140	<0.005	<0.005			
			1	147	<0.005	<0.005			
			1	154	<0.005	<0.005			
		岐阜県農技研 (恵那市) (在来種)	0	—	<0.005	<0.005			
			1	139	<0.005	<0.005			
			1	146	<0.005	<0.005			
			1	153	<0.005	<0.005			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 139								
ごぼう (根部)	粒剤(5%) 4kg/10a 土壌混和	宮崎県総農試 (柳川理想)	0 1	— 166	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
		熊本県農研センター(渡辺早生)	0 1	— 130	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
No. 43								
レタス (茎葉)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	日植防研究所 (オーガスタ)	0 2	— 57	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
		日植防宮崎 (グレートレックス)	0 2	— 98	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
レタス (茎葉)	乳剤(40%) 1000倍 200L/10a 散布	鯉淵学園 (グレートレックス 366)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
			2	14	0.066	0.065	0.031	0.030
			2	21	0.002	0.002	0.005	0.005
			2	28	<0.001	<0.001	0.002	0.002
		長野 農業大学校 (グレートレックス 366)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
			2 2 2	14 19 27	<0.001 <0.001 <0.001	<0.001 <0.001 <0.001	<0.001 <0.001 <0.001	<0.001 <0.001 <0.001
No. 119								
レタス (茎葉)	油剤(2%) 20L/10a 1回 (1穴あたり2ml、 30cm間隔の千鳥 状に点注処理) 粒剤(10%) 3kg/10a 定植時全面土壌混和 生育期作業処理	日植防研究所 (みずさわ)	0	0	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	46	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	53	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	60	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		長野県農総試 (シノサマー)	0	0	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	41	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	48	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	55	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 173								
サラダ菜 (莖葉)	粒剤(5%) 6kg/10a は種時、定植時 全面土壌混和	大分県 肥料植防協 (サラダ菜)	0	-	<0.005	<0.005		
			2	45	<0.005	<0.005		
			2	52	<0.005	<0.005		
			2	59	<0.005	<0.005		
		日植防宮崎 (マクグリーン)	0	-	<0.005	<0.005		
			2	15	0.028	0.028		
			2	22	0.016	0.016		
			2	29	0.012	0.012		
No. 120								
リーフレタス (莖葉)	油剤(2%) 20L/10a 1回 { 1穴あたり2ml、 30cm間隔の千鳥 状に点注処理 } 粒剤(10%) 3kg/10a 定植時全面土壌混和 生育期作条処理	埼玉県農総研 (グリーンウェーブ)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	35	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	42	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	49	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		愛知県農総試 (レッドウェーブ)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	33	0.057	0.056	0.060	0.060
			3	40	0.023	0.022	0.022	0.022
			3	47	0.015	0.014	0.016	0.015
No. 147								
リーフレタス (莖葉)	粒剤(5%) 6kg/10a 作条土壌混和	香川県農試 (グリーンウェーブ)	0	-			<0.01	<0.01
			1	59			0.02	0.02
		香川県農試病 害虫防除所(レ ッドファルダ)	0	-			<0.01	<0.01
			1	95			<0.01	<0.01
No. 174								
リーフレタス (莖葉)	粒剤(5%) 6kg/10a は種時、定植時 全面土壌混和	大分県 肥料植防協 (グリーンウェーブ)	0	-	<0.005	<0.005		
			2	48	<0.005	<0.005		
			2	55	<0.005	<0.005		
			2	62	<0.005	<0.005		
		日植防宮崎 (グリーンウェーブ)	0	-	<0.005	<0.005		
			2	22	0.016	0.016		
			2	29	0.011	0.011		
			2	36	0.011	0.010		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					ダイアジノン		ダイアジノン		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
No. 67									
ほうれんそう (茎葉)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	長野県植防南 信(ハイオア)	0 1	— 30	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	
		岐阜県植防 (オリオン)	0 1	— 35	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	
No. 63									
ほうれんそう (茎葉)	乳剤(40%) 1000倍 ^{a)} 25-110L/10a 散布 ^{b)} 400L/10a 散布	日植防牛久 (オーライ)	0 2 ^{a)} 2 ^{a)}	— 21 28	<0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005	
		長野県植防 南信 (晩抽ハイオア)	0 2 ^{b)} 2 ^{b)}	— 21 28	<0.005 0.008 <0.005	<0.005 0.008 <0.005	<0.005 0.009 <0.005	<0.005 0.008 <0.005	
No. 150									
ほうれんそう (茎葉) (施設)	粒剤(10%) 5kg/10a は種時土壌混和1回 乳剤(40%) 1000倍 200L/10a 散布 1回	福島県植防 郡山 (ソロモン)	0 2 2 2	— 14 21 28	<0.005 0.032 0.022 0.016	<0.005 0.032 0.022 0.016	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	
		岐阜県植防 (晩抽バルク)	0 2 2 2	— 14 21 28	<0.005 <0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005 <0.005	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	
No. 155									
こまつな (茎葉) (施設)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌表面散布	岐阜県植防 (夏楽天)	0 1 1 1	— 44 47 54	<0.005 <0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005 <0.005	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	
		兵庫県植防 (夏楽天)	0 1 1 1	— 25 28 35	<0.005 <0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005 <0.005	<0.01 0.01 0.01 <0.01	<0.01 0.01 0.01 <0.01	
No. 68									
みずな (茎葉)	粒剤(5%) ^{a)} 6kg/10a ^{b)} 12kg/10a 土壌表面散布	京都府農総研 (和知町阿栖 里) (早生白系千 筋水菜)	0 1 ^{a)} 1 ^{a)} 1 ^{b)}	— 24 25 24	<0.002 0.003 0.003 0.010	<0.002 0.003 0.003 0.010			
		京都府農総研 (和知町篠原) (早生白系千 筋京水菜)	0 1 ^{a)} 1 ^{b)}	— 28 28	<0.002 0.018 0.028	<0.002 0.018 0.027			
No. 156									
みずな (茎葉) (施設)	粒剤(5%) 6kg/10a 全面土壌混和	茨城県農総研 ター行方地域農 業改良普及セン ター(行方市) (早生千筋)	0 1 1 1 1	— 14 21 30 45			<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

		茨城県農総センター 行方地域農業改良普及センター (潮来市) (早生千筋)	0 1 1 1 1	— 14 21 30 45			<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01
作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 157								
みずな (茎葉) (施設)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌表面散布	日植防 (京みぞれ)	0	—			<0.005	<0.005
			1	52			<0.005	<0.005
			1	55			<0.005	<0.005
			1	62			<0.005	<0.005
		日植防高知 (京みぞれ)	0	—			<0.005	<0.005
			1	20			<0.005	<0.005
			1	23			<0.005	<0.005
			1	30			<0.005	<0.005
No. 124								
はなっこりー (花蕾部)	粒剤(5%) 4kg/10a 土壌混和	山口県農試 (はなっこりー)	0	—	<0.01	<0.01		
			1	53	<0.01	<0.01		
			1	60	<0.01	<0.01		
			1	67	<0.01	<0.01		
		山口県農試 徳佐寒冷地 分場 (はなっこりー)	0	—	<0.01	<0.01		
			1	54	<0.01	<0.01		
			1	61	<0.01	<0.01		
			1	68	<0.01	<0.01		
No. 128								
ふき (葉柄)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌表面散布	群馬県農技センター (沼田市) (群馬県在来 (水フキ))	0	—	<0.01	<0.01		
			3	30	<0.01	<0.01		
			3	45	<0.01	<0.01		
			3	59	<0.01	<0.01		
		群馬県農技センター (吾妻町) (群馬県在来 (水フキ))	0	—	<0.01	<0.01		
			3	30	<0.01	<0.01		
			3	45	<0.01	<0.01		
			3	60	<0.01	<0.01		
No. 160								
ふきのとう (花蕾)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌表面散布	群馬県農技センター (沼田市) (水フキ在来種)	0	0	<0.01	<0.01		
			2	120	0.17	0.12		
			2	147	<0.01	<0.01		
			2	177	<0.01	<0.01		
		群馬県農技センター (吾妻町) (水フキ在来種)	0	0	<0.01	<0.01		
			2	120	<0.01	<0.01		
			2	148	<0.01	<0.01		
			2	173	<0.01	<0.01		
No. 131								
みつば (茎葉部)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	北海道立 上川農試 (東川町) (柳川2号)	0	—			<0.005	<0.005
			1	80			<0.005	<0.005
			1	87			<0.005	<0.005
			1	94			<0.005	<0.005
		北海道立 上川農試 (比布町) (柳川2号)	0	—			<0.005	<0.005
			1	86			<0.005	<0.005
			1	93			<0.005	<0.005
			1	100			<0.005	<0.005

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 135								
ははこぐさ (茎葉部)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	神奈川農総試 (三浦市) (在来種)	0	—	<0.025	<0.025		
			1	77	<0.025	<0.025		
			1	84	<0.025	<0.025		
			1	91	<0.025	<0.025		
		神奈川農総試 (平塚市) (在来種)	0	—	<0.025	<0.025		
			1	62	<0.025	<0.025		
			1	69	<0.025	<0.025		
			1	76	<0.025	<0.025		
No. 136								
なずな (茎葉部)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	神奈川農総試 (三浦市) (在来種)	0	—	<0.025	<0.025		
			1	62	<0.025	<0.025		
			1	69	<0.025	<0.025		
			1	76	<0.025	<0.025		
		神奈川農総試 (平塚市) (在来種)	0	—	<0.025	<0.025		
			1	53	<0.025	<0.025		
			1	60	<0.025	<0.025		
			1	68	<0.025	<0.025		
No. 137								
はこべ (茎葉部)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	神奈川農総試 (三浦市) (在来種)	0	—	<0.025	<0.025		
			1	62	<0.025	<0.025		
			1	69	<0.025	<0.025		
			1	76	<0.025	<0.025		
		神奈川農総試 (平塚市) (在来種)	0	—	<0.025	<0.025		
			1	53	<0.025	<0.025		
			1	60	<0.025	<0.025		
			1	68	<0.025	<0.025		
No. 138								
こおにたびらこ (茎葉部)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌混和	神奈川農総試 (三浦市) (在来種)	0	—	<0.025	<0.025		
			1	73	<0.025	<0.025		
			1	80	<0.025	<0.025		
			1	87	<0.025	<0.025		
		神奈川農総試 (平塚市) (在来種)	0	—	<0.025	<0.025		
			1	53	<0.025	<0.025		
			1	60	<0.025	<0.025		
			1	68	<0.025	<0.025		
No. 69								
にんにく (鱗片)	水和剤(34%) 1000倍 250L/10a 散布	青森県農試 (福地村付)	0	—	<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01		
			3	21	<0.01	<0.01		
			3	28	<0.01	<0.01		
		青森県 畑作園芸試 (福地村付)	0	—	<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01		
			3	21	<0.01	<0.01		
			3	28	<0.01	<0.01		
No. 134								
葉にんにく (茎葉)	粒剤(5%) 9kg/10a 土壌混和	千葉県農総研 センター(匝瑳 市)(上海早生)	0 1	— 138			<0.01 <0.01	<0.01 <0.01

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
		千葉県農総研 センター(白子 町)(上海早生)	0 1	— 138			<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
No. 132								
食用ゆり (鱗茎)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壤混和	北海道 中央農試 (白銀)	0	—			<0.005	<0.005
			2	14			<0.005	<0.005
			2	21			<0.005	<0.005
			2	30			<0.005	<0.005
		北海道 花野菜センター (白銀)	0	—			<0.005	<0.005
			2	14			0.050	0.050
			2	21			0.079	0.078
			2	30			0.028	0.028
No. 140								
食用ゆり (鱗茎)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壤混和	北海道 中央農試 (白銀)	0	—			<0.005	<0.005
			2	21			<0.005	<0.005
			2	30			<0.005	<0.005
			2	45			<0.005	<0.005
No. 126								
にら (茎葉)	粒剤(5%) 5kg/10a 土壤混和	栃木県農試 (スーパーグリーン ベルト)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	173	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		高知県農技セン ター(スーパーグリーン ベルト)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	114	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
No. 78								
りんご (果実)	粒剤(3%) 9kg/10a 土壤表面散布	茨城県山間 地帯特産指 (つがる)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			6	55	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		富山県 農技セ・果試 (ふじ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			6	113	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
No. 12								
りんご (果実)	粒剤(5%) ^{a)} 6kg/10a 散布 ^{b)} 5kg/10a 散布	秋田県果試 (ゴールデン デリシャス)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
			4 ^{a)}	61	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
			6 ^{b)}	61	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		千葉県大学 (紅玉)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
3 ^{b)}	59		0.001	0.001	<0.001	<0.001		
No. 36								
りんご (果実)	水和剤(34%) 1000倍 500L/10a 散布	長野植防南信 (ふじ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			6	14	0.105	0.096	0.097	0.094
			6	30	0.019	0.018	0.016	0.016
		富山県 農技セ・果試 (王鈴)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			6	14	0.312	0.303	0.259	0.256
			6	30	0.068	0.065	0.077	0.076

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					ダイアジノン		ダイアジノン				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
日本農薬 ¹⁾											
りんご (果実) 昭和59年度	乳剤(20%) 100倍希釈 ^{a)} 30L/10a ^{b)} 20L/10a 樹幹部散布	岩手県園試 (スターキング [®] デ [®] リン マス)	0	—	<0.01	<0.01	<0.002	<0.002			
			4 ^{a)}	21	<0.01	<0.01	0.004	0.004			
			4 ^{a)}	30	<0.01	<0.01	0.002	0.002			
		長野県植防 (紅玉)	0	—	<0.01	<0.01	<0.002	<0.002			
			4 ^{b)}	21	<0.01	<0.01	<0.002	<0.002			
			4 ^{b)}	30	<0.01	<0.01	<0.002	<0.002			
サカイ化学 ¹⁾											
りんご (無袋) (果実) 平成6年度	乳剤(30%) 1000倍 500L/10a 散布	岩手県植防 (ふじ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			4	30	0.029	0.028	0.035	0.033			
			4	45	0.012	0.012	0.014	0.014			
		長野県植防 (つがる)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			4	30	0.025	0.024	0.027	0.026			
			4	45	0.011	0.010	0.018	0.018			
No. 25											
日本なし (果実) 昭和52年度	乳剤(40%) 1000倍 500L/10a 散布	東京農工大 (長十郎)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001			
			6	13	0.007	0.007	0.008	0.008			
			6	22	0.006	0.006	0.004	0.004			
			6	29	0.003	0.003	0.005	0.004			
		長野県農総試 (二十世紀)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001			
			6	14	0.017	0.016	0.010	0.010			
			6	22	0.006	0.006	0.004	0.004			
			6	30	0.002	0.002	0.002	0.002			
			No. 83								
			日本なし (果実) 平成4年度	水和剤(34%) 1000倍 ^{a)} 500L/10a 散布 ^{b)} 400L/10a 散布	石川県植防 (幸水)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
3 ^{a)}	14	0.021				0.020	0.020	0.020			
鳥取県植防 (幸水)	3 ^{a)}	21			0.006	0.006	0.005	0.005			
	0	—			<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
	3 ^{b)}	14			0.013	0.012	0.009	0.008			
	3 ^{b)}	21			0.005	0.005	<0.005	<0.005			
No. 123											
ネクタリン (果実) 平成15年度 平成16年度	水和剤(34%) 1000倍 400L/10a 散布	群馬県 農技センター (H15 秀峰)	0	—	<0.01	<0.01					
			3	14	0.06	0.06					
			3	21	<0.01	<0.01					
			3	30	0.01	0.01					
			3	30	<0.01	<0.01					
			3	45	<0.01	<0.01					
			群馬県 農技センター (H16 秀峰)	0	—	<0.01	<0.01				
		3		14	0.02	0.02					
		3		21	0.01	0.01					
		3		30	<0.01	<0.01					
		3		30	<0.01	<0.01					
		3		30	<0.01	<0.01					
		3		45	<0.01	<0.01					

1) データ所有者

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					ダイアジノン		ダイアジノン	
					最高値	平均値	最高値	平均値
No. 47								
もも (果肉)	水和剤(34%) 1000倍 a) 500L/10a 散布 b) 400L/10a 散布	長野県 植防・須坂 (白鳳)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			4 ^{a)}	1	<0.005	<0.005	0.005	0.005
			4 ^{a)}	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		福岡県農総試 (紅鳳)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
4 ^{b)}	1	0.007	0.007	0.022	0.020			
4 ^{b)}	14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
No. 47								
もも (果皮)	水和剤(34%) 1000倍 a) 500L/10a 散布 b) 400L/10a 散布	長野県 植防・須坂 (白鳳)	0	—	0.02	0.02	0.016	0.016
			4 ^{a)}	1	4.48	4.37	3.06	3.02
			4 ^{a)}	14	0.20	0.20	0.142	0.141
		福岡県農総試 (紅鳳)	0	—	0.03	0.03	0.029	0.028
4 ^{b)}	1	4.18	4.15	8.25	8.14			
4 ^{b)}	14	0.26	0.26	0.263	0.259			
No. 82								
もも (果肉)	乳剤(40%) 1000倍 500L/10a 散布	長野県 植防・須坂 (白鳳)	0	—	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
			3	14	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
			5	7	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
			5	14	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
			5	21	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
		和歌山県 果園試 (ちよひめ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
			3	14	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
			5	7	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
			5	14	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
			5	21	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
No. 82								
もも (果皮)	乳剤(40%) 1000倍 500L/10a 散布	長野県 植防・須坂 (白鳳)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	14	1.97	1.91	1.12	1.08
			5	7	2.84	2.76	2.18	2.14
			5	14	1.59	1.52	0.98	0.96
			5	21	0.48	0.46	0.49	0.48
		和歌山県 果園試 (ちよひめ)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	14	1.07	1.06	0.88	0.88
			5	7	3.91	3.90	2.88	2.80
			5	14	1.07	1.07	0.98	0.98
			5	21	0.45	0.44	0.29	0.28

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					ダイアジノン		ダイアジノン		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
もも (果肉)	乳剤(20%) 100倍 300L/10a 散布	山形県園試 (砂子早生)	0	—	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	
			2	69	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	
			2	73	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	
			4	85	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	
			4	89	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	
		香川県農試 (砂子早生)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			5	33	0.017	0.014	0.017	0.014	
もも (果皮)	乳剤(20%) 100倍 300L/10a 散布	山形県園試 (砂子早生)	0	—	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008	
			2	69	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008	
			2	73	<0.008	<0.008	<0.008	<0.008	
			4	85	0.012	0.010	0.012	0.010	
			4	89	0.009	0.008	0.009	0.008	
		香川県農試 (砂子早生)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	33	0.08	0.07	0.08	0.07	
No. 72									
ぶどう (果実) (大粒)	水和剤(34%) 1000倍 300L/10a 散布	新潟県園試 (巨峰)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
			2	7	0.01	0.01	0.015	0.014	
			2	14	<0.01	<0.01	0.017	0.016	
			2	21	<0.01	<0.01	0.019	0.017	
		佐賀県果試 (巨峰)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
			2	7	0.32	0.31	0.507	0.498	
			2	14	0.05	0.04	0.057	0.054	
			2	21	0.03	0.02	0.025	0.022	
No. 106									
ぶどう (果実) (大粒)	水和剤(34%) 1000倍 ^{a)} 400L/10a 散布 ^{b)} 300L/10a 散布	岡山県農試 (ピオーネ)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2 ^{a)}	14	0.053	0.052	0.030	0.030	
			2 ^{a)}	21	0.013	0.012	0.015	0.014	
			2 ^{a)}	30	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		大分県 農技センター (巨峰)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2 ^{b)}	14	0.085	0.084	0.077	0.076	
			2 ^{b)}	21	0.084	0.084	0.093	0.093	
			2 ^{b)}	30	0.008	0.008	0.007	0.007	
No. 73									
ぶどう (果実) (小粒)	水和剤(34%) 1000倍 200L/10a 散布	山梨県果試 (デラウェア)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
			1	7	2.12	2.04	0.081	0.078	
			1	14	0.90	0.88	0.068	0.064	
			1	21	0.30	0.29	0.087	0.087	
		奈良県農試 (デラウェア)	0	—	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005	
			1	7	0.08	0.08	2.43	2.32	
			1	14	0.08	0.08	0.712	0.644	
			1	21	0.11	0.10	0.556	0.514	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					ダイアジノン		ダイアジノン		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
ぶどう (果実) 山形(小粒) 秋田(大粒)	乳剤(20%) 100倍 250L/10a 散布	山形県園試 (デラウェア)	0	—	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	
			1	120	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	
		秋田県果試 (キャンベル)	0	—	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
1	135		<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004		
			2	135	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	
No. 48									
かき (果実)	水和剤(34%) 1000倍 ^{a)} 400L/10a 散布 ^{b)} 500L/10a 散布	新潟県佐渡 農技センター (平核無)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			5 ^{a)}	14	0.133	0.128	0.164	0.162	
			5 ^{a)}	22	0.060	0.060	0.027	0.027	
		愛知県農総試 (次郎)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			5 ^{b)}	14	0.317	0.314	0.466	0.462	
			5 ^{b)}	21	0.153	0.148	0.186	0.185	
No. 95									
かき (果実)	水和剤(34%) 1000倍 500L/10a 散布	新潟県園試 (平核無)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			4	46	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			4	60	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		徳島県植防 (富有)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			4	12	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			4	56	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
No. 37									
おうとう (果実)	水和剤(34%) 1000倍 500L/10a 散布	山形県園試 (ビーナス)	0	—	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004	
			2	7	0.124	0.122	0.149	0.148	
			2	14	0.008	0.008	0.006	0.006	
		新潟県園試 (ナボレオン)	0	—	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004	
			2	7	0.032	0.032	0.030	0.030	
			2	14	0.015	0.014	0.009	0.009	
おうとう (果実) 昭和59年度	乳剤(20%) 200倍 20L/10a	青森県 畑作園試 (ナボレボン 佐藤錦)	0	—	<0.01	<0.01	<0.002	<0.002	
			2	10	<0.01	<0.01	<0.002	<0.002	
No. 85									
うめ (果実)	水和剤(34%) 1000倍 500L/10a 散布	群馬県園試 (白加賀)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		徳島県植防 (鶯宿)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
2	21		<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
うめ (果実)	乳剤(20%) 100倍 300L/10a 散布	長野県植防 (白加賀)	0	—			0.010	0.010	
			1	95			0.007	0.007	
うめ (果実)	水和剤(34%) 1000倍 500L/10a	福井県園試 (剣先)	0	—			<0.005	<0.005	
			2	21			<0.005	<0.005	
			2	28			<0.005	<0.005	
		和歌山県 果樹園試 (南高)	0	—			<0.005	<0.005	<0.005
			2	21			<0.005	<0.005	<0.005
			2	28			<0.005	<0.005	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					ダイアジノン		ダイアジノン				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
No. 65											
びわ (果実)	水和剤(34%) 1000倍 a) 400L/10a 散布 b) 500L/10a 散布	千葉県暖地園 試(中井滋郎)	0 2 ^{a)}	— 21	<0.005 0.099	<0.005 0.094	0.005 0.084	0.005 0.078			
		静岡県柑橘 (茂木)	0 2 ^{b)}	— 21	<0.005 0.071	<0.005 0.070	0.005 0.071	0.005 0.068			
No. 96											
すもも (果実)	水和剤(34%) 1000倍 a) 400L/10a 散布 b) 500L/10a 散布	福島県植防 (ソルダム)	0 4 ^{a)} 4 ^{a)} 4 ^{a)}	— 7 14 21	<0.005 0.098 0.022 0.010	<0.005 0.098 0.022 0.010	<0.005 0.184 0.032 0.014	<0.005 0.166 0.030 0.014			
			山梨県果試 (ソルダム)	0 4 ^{b)} 4 ^{b)} 4 ^{b)}	— 6 13 20	<0.005 0.010 0.005 0.005	<0.005 0.010 0.005 0.005	<0.005 0.006 0.005 0.005	<0.005 0.006 0.005 0.005		
		No. 16									
		茶 (荒茶)	乳剤(40%) 1000倍 200L/10a 散布	静岡県茶試 (やぶきた)	0 1 1 1 2	— 7 14 21 7	<0.004 0.007 0.004 0.004 0.006	<0.004 0.006 0.004 0.004 0.006	0.005 0.013 0.007 0.006 0.016	0.005 0.012 0.007 0.006 0.016	
					高知県農試 (やぶきた)	0 1 1 1 2	— 7 15 22 8	<0.004 0.004 0.004 0.004 0.008	<0.004 0.004 0.004 0.004 0.008	0.009 0.011 0.008 0.007 0.034	0.008 0.010 0.008 0.006 0.030
No. 16											
茶 (浸出液)	乳剤(40%) 1000倍 200L/10a 散布			静岡県茶試 (やぶきた)	0 1 1 1 2	— 7 14 21 7			<0.02 0.02 0.02 0.02 0.02	<0.02 0.02 0.02 0.02 0.02	
					高知県農試 (やぶきた)	0 1 1 1 2	— 7 15 22 8			<0.02 0.02 0.02 0.02 0.02	<0.02 0.02 0.02 0.02 0.02
		No. 122									
		茶 (荒茶)	乳剤(40%) 1000倍 1000L/10a 散布(休眠期)	三重県植防 (みえ緑萌1号)	0 2	— 200	<0.005 0.005	<0.005 0.005	<0.005 0.005	<0.005 0.005	
				鹿児島県茶試 (おくみどり)	0 2	— 33	<0.005 0.008	<0.005 0.008	<0.005 0.012	<0.005 0.011	
		No. 122									
		茶 (浸出液)	乳剤(40%) 1000倍 1000L/10a 散布(休眠期)	三重県植防 (みえ緑萌1号)	0 2	— 200			<0.005 0.005	<0.005 0.005	
鹿児島県茶試 (おくみどり)	0 2			— 33			<0.005 0.005	<0.005 0.005			
No. 122											
茶 (荒茶)	乳剤(40%) 1000倍 1000L/10a 散布(休眠期)	鹿児島県茶試 (おくみどり)	0 1 1	— 179 186	<0.005 0.005 0.005	<0.005 0.005 0.005	<0.005 0.005 0.005	<0.005 0.005 0.005			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分濃度) 希釈倍数または 使用量、使用方法	試料調製 場 所 (品 種)	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					ダイアジノン		ダイアジノン		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
No. 149									
茶 (荒茶)	乳剤(40%) 1000倍 1000L/10a 散布	三重県植防 (やぶきた)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	30	0.129	0.126	0.125	0.124	
			2	60	0.011	0.010	0.016	0.016	
			2	90	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		京都府立 茶業研 (やぶきた)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	30	0.076	0.074	0.097	0.096	
			2	60	0.033	0.032	0.036	0.035	
			2	90	0.024	0.023	0.022	0.022	
No. 23									
さとうきび (茎部)	微粒剤(3%) ^{a)} 3kg/10a 散布 ^{b)} 4kg/10a 散布	鹿児島県 農試中勝 (N:CO310)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
			2 ^{a)}	101	<0.002	<0.002	0.006	0.004	
		鹿児島県 農試伊仙 (N:CO310)	0	—	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
			2 ^{b)}	151	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	
No. 24									
さとうきび (茎部)	粒剤(5%) ^{a)} 15kg/10a 植溝 ^{b)} 15kg/10a 植溝1回 9kg/10a 株元処 理1回	沖縄県農試 (NCo310)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
			1 ^{a)}	251	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
			2 ^{b)}	239	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
		沖縄県農試 名護 (N:Co310)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
1 ^{a)}	315		0.001	0.001	0.001	0.001			
			2 ^{b)}	161	0.001	0.001	<0.001	<0.001	
さとうきび (茎部)	乳剤(40%) 800倍 200L/10a 散布	沖縄県農試 (NCo310)	0	—			<0.001	<0.001	
			2	6			0.036	0.034	
			2	14			<0.001	<0.001	
			4	35			<0.001	<0.001	
		沖縄県農試 名護 (N:Co310)	0	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
			2	6	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
			2	13	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
			4	107	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
No. 121									
さとうきび (茎部)	乳剤(40%) 800倍 200L/10a 散布	鹿児島県農試 (Ni2)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	60	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	90	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
		沖縄県農試 (Ni9)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	7	0.030	0.030	0.030	0.030	
			2	63	0.047	0.046	0.040	0.040	
			2	92	<0.005	<0.005	0.006	0.006	
No. 170									
たらのき (伏せ込み栽 培 促成芽)	粒剤(5%) 6kg/10a 土壌表面散布 穂木養成期出芽前1回 穂木養成期出芽後1回	群馬県 伊勢崎市 (新駒)	0	—			<0.005	<0.005	
			2	188			<0.005	<0.005	
			2	209			<0.005	<0.005	
			2	224			<0.005	<0.005	
		群馬県 渋川市 (新駒)	0	—	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	189	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	210	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			2	225	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

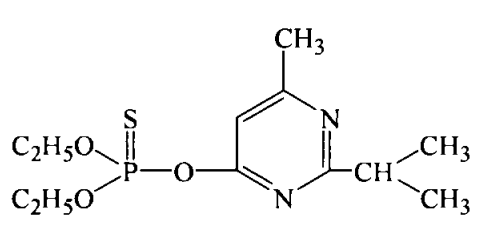
2. 土壌残留

(1) 分析法

① 圃場試験

② 容器内試験

(2) 分析対象化合物

項目	親化合物
化学名	(2-isopropyl-4-methylpyrimidinyl-6)-diethylthiophosphate
構造式	
分子式	C ₁₂ H ₂₁ N ₂ O ₃ PS
分子量	304.3
記号	ダイアジノン

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

(3) 残留試験結果

① 畑地状態の圃場試験

ダイアジノン40%乳剤(年度)

推定半減期：日植防 約5日、兵庫 約4日

分析機関：

試料調製及び採取場所	供試薬剤の濃度・量・回数	薬剤使用年月日	試料採取年月日	使用回数	経過日数	分析値(ppm)		
						最高値	回数	平均値
日植防協会研究所 (畑地土)	—	—	/ 5/ 7	0	—	<0.003	2	<0.003
	洪積火山灰埴壤土 150~200L/10a 3回施用	乳剤(40%) 1000倍希釈 3回施用	/ 5/ 7	/ 5/27	3	0	2.29	2
/ 5/17			/ 6/ 3	3	7	0.96	2	0.93
/ 5/27			/ 6/10	3	14	0.48	2	0.48
			/ 6/17	3	21	0.17	2	0.16
			/ 6/26	3	30	0.05	2	0.05
			/ 7/26	3	60	0.02	2	0.02
	/ 8/25	3	90	0.01	2	0.01		
兵庫県 農業総合センター (畑地土)	—	—	/ 6/29	0	—	<0.002	2	<0.002
	沖積壤土 100L/10a 3回施用	乳剤(40%) 1000倍希釈 3回施用	/ 6/29	/ 7/20	3	0	0.59	2
/ 7/ 9			/ 7/27	3	7	0.05	2	0.05
/ 7/20			/ 8/ 3	3	14	0.04	2	0.04
			/ 8/10	3	21	0.01	2	0.01
			/ 8/19	3	30	0.008	2	0.008
			/ 9/18	3	60	—*		—*
	/10/19	3	90	—*		—*		

*：測定せず

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

ダイアジノンSLゾル(年度, 覆下栽培)

推定半減期: 50倍希釈 約83日、25倍希釈 約91日

分析機関 :

試料調製及び採取場所	供試薬剤の濃度・量・回数	薬剤使用年月日	試料採取年月日	使用回数	経過日数	分析値(ppm)		
						最高値	回数	平均値
日本化薬株式会社 上尾研究所 (畑地土) (覆下栽培) 火山灰植壌土	—	—	/ 4/12	0	—	<0.02	2	<0.02
	マイクロカプセル剤 (25%) 50倍希釈 100L/10a 1回施用	/ 4/12	/ 4/12	1	0	5.49	2	5.34
			/ 5/13	1	31	3.15	2	3.04
			/ 6/12	1	61	3.89	2	3.82
			/ 7/12	1	91	2.43	2	2.36
			/ 8/11	1	121	2.92	2	2.84
			/ 9/14	1	155	1.42	2	1.38
			/11/14	1	226	1.24	2	1.10
			/12/14	1	256	1.62	2	1.58
			/ 1/12	1	285	1.40	2	1.32
			/ 2/12	1	316	1.25	2	1.20
			/ 3/12	1	344	1.04	2	1.02
			/ 4/14	1	377	0.90	2	0.86
/ 5/12	1	405	0.95	2	0.92			
日本化薬株式会社 上尾研究所 (畑地土) (覆下栽培) 火山灰植壌土	—	—	/ 4/12	0	—	<0.02	2	<0.02
	マイクロカプセル剤 (25%) 25倍希釈 100L/10a 1回施用	/ 4/12	/ 4/12	1	0	10.4	2	10.2
			/ 5/13	1	31	8.58	2	8.52
			/ 6/12	1	61	11.1	2	10.2
			/ 7/12	1	91	5.31	2	5.06
			/ 8/11	1	121	11.8	2	11.4
			/ 9/14	1	155	4.23	2	3.94
			/11/14	1	226	3.77	2	3.72
			/12/14	1	256	3.78	2	3.64
			/ 1/12	1	285	3.30	2	3.07
			/ 2/12	1	316	3.80	2	3.80
			/ 3/12	1	344	2.65	2	2.63
			/ 4/14	1	377	3.23	2	3.18
/ 5/12	1	405	2.57	2	2.54			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

ダイアジノンS.L.ゾル(, 露地栽培)

推定半減期：50倍希釈 約109日, 25倍希釈 約54日

分析機関：

試料調製及び採取場所	供試薬剤の濃度・量・回数	薬剤使用年月日	試料採取年月日	使用回数	経過日数	分析値(ppm)		
						最高値	回数	平均値
日本化薬株式会社 上尾研究所 (畑地上) (露地栽培) 火山灰埴壤土	—	—	/ 4/12	0	—	<0.02	2	<0.02
	マイクロカプセル剤 (25%) 50倍希釈 100L/10a 1回施用	/ 4/12	/ 4/12	1	0	5.49	2	5.34
			/ 5/13	1	31	5.79	2	5.46
			/ 6/12	1	61	5.61	2	4.36
			/ 7/12	1	91	4.92	2	4.85
			/ 8/11	1	121	1.74	2	1.74
			/ 9/14	1	155	1.44	2	1.40
			/ 11/14	1	226	1.48	2	1.48
			/ 12/14	1	256	1.74	2	1.70
			/ 1/12	1	285	1.20	2	1.17
			/ 2/12	1	316	1.25	2	1.13
			/ 3/12	1	344	1.44	2	1.37
			/ 4/14	1	377	1.66	2	1.66
/ 5/12	1	405	1.15	2	1.09			
日本化薬株式会社 上尾研究所 (畑地上) (露地栽培) 火山灰埴壤土	—	—	/ 4/12	0	—	<0.02	2	<0.02
	マイクロカプセル剤 (25%) 25倍希釈 100L/10a 1回施用	/ 4/12	/ 4/12	1	0	10.4	2	10.25
			/ 5/13	1	31	10.3	2	10.1
			/ 6/12	1	61	3.79	2	3.99
			/ 7/12	1	91	6.07	2	5.94
			/ 8/11	1	121	4.73	2	4.60
			/ 9/14	1	155	4.24	2	4.00
			/ 11/14	1	226	3.12	2	3.11
			/ 12/14	1	256	4.48	2	4.40
			/ 1/12	1	285	3.09	2	3.02
			/ 2/12	1	316	3.46	2	3.24
			/ 3/12	1	344	3.22	2	3.03
			/ 4/14	1	377	3.94	2	3.84
/ 5/12	1	405	3.14	2	3.08			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

ダイアジノンSLゾル()

推定半減期：上尾 約128日、平方 約80日、鹿児島 約93日

分析機関：

試料調製及び採取場所	供試薬剤の濃度・量・回数	薬剤使用年月日	試料採取年月日	使用回数	経過日数	分析値(ppm)		
						最高値	回数	平均値
日本化薬株式会社 上尾研究所 (畑地上) (覆下栽培) 火山灰埴壤土	—	—	/ 4/13	0	—	<0.02	2	<0.02
	マイクロカブセル剤 (25%) 50倍希釈 100L/10a 1回施用	/ 4/14	/ 4/14	1	0	5.18	2	5.06
			/ 5/14	1	30	4.92	2	4.64
			/ 6/14	1	61	3.81	2	3.70
			/ 7/14	1	91	3.18	2	3.16
			/ 8/23	1	131	3.25	2	3.01
/ 9/16	1	155	1.61	2	1.54			
/ 10/18	1	187	2.20	2	2.08			
埼玉県上尾市平方 農家圃場 (畑地上) (覆下栽培) 沖積砂壤土	—	—	/ 4/13	0	—	<0.02	2	<0.02
	マイクロカブセル剤 (25%) 50倍希釈 100L/10a 1回施用	/ 4/14	/ 4/14	1	0	4.27	2	4.26
			/ 5/14	1	30	3.08	2	2.93
			/ 6/14	1	61	2.62	2	2.56
			/ 7/14	1	91	1.74	2	1.66
			/ 8/23	1	131	1.78	2	1.75
/ 9/16	1	155	1.12	2	1.10			
/ 10/19	1	188	1.01	2	0.93			
鹿児島県掛宿郡 農家圃場 (畑地上) (覆下栽培) 火山灰砂壤土	—	—	/ 4/19	0	—	<0.02	2	<0.02
	マイクロカブセル剤 (25%) 50倍希釈 100L/10a 1回施用	/ 4/19	/ 4/19	1	0	4.87	2	4.68
			/ 5/20	1	31	4.04	2	3.98
			/ 6/18	1	60	2.59	2	2.56
			/ 8/ 4	1	107	1.77	2	1.74
			/ 8/20	1	123	1.63	2	1.59
/ 9/17	1	151	1.78	2	1.74			
/ 10/26	1	190	1.50	2	1.48			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

ダイアジノン40%EW剤()

推定半減期：約7日

分析機関：

試料調製及び採取場所	供試薬剤の濃度・量・回数	薬剤使用年月日	試料採取年月日	使用回数	経過日数	分析値(ppm)		
						最高値	回数	平均値
日本化薬株式会社 上尾研究所 (芝地上) 火山灰埴壤土	—	—	/ 7/29	0	—	<0.01	2	<0.01
	EW剤(40%) 1000倍希釈 3L/m ² 1回施用	/ 7/29	/ 7/29	1	0	10.1	2	10.0
			/ 8/ 1	1	3	9.82	2	9.74
			/ 8/ 5	1	7	4.73	2	4.56
			/ 8/12	1	14	1.56	2	1.52
/ 8/28	1	30	0.264	2	0.262			

ダイアジノン40%乳剤(年度)

推定半減期：約4日

分析機関：

試料調製及び採取場所	供試薬剤の濃度・量・回数	薬剤使用年月日	試料採取年月日	使用回数	経過日数	分析値(ppm)		
						最高値	回数	平均値
日本化薬株式会社 上尾研究所 (芝地上) 火山灰埴壤土	—	—	/ 7/29	0	—	<0.01	2	<0.01
	乳剤(40%) 1000倍希釈 3L/m ² 1回施用	/ 7/29	/ 7/29	1	0	17.1	2	17.0
			/ 8/ 1	1	3	9.45	2	9.21
			/ 8/ 5	1	7	5.07	2	4.96
			/ 8/12	1	14	1.38	2	1.22
/ 8/28	1	30	0.129	2	0.119			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本化薬株式会社にある。

④畑地状態の容器内試験

推定半減期：農事試験場 約12日、三重 約11日

分析機関：

試料調製及び採取場所	供試薬剤の濃度・量・回数	薬剤使用年月日	試料採取年月日	使用回数	経過日数	分析値(ppm)		
						最高値	回数	平均値
農事試験場畑作部 (畑地土) 火山灰洪積壤土	—	—	/10/28	0	—	<0.003	2	<0.003
	2.5 mg/kg (100 µg/40 g 乾土相当量) 30℃	/10/28	/10/28	1	0	2.48	2	2.46
			/10/31	1	3	2.12	2	2.00
			/11/ 4	1	7	1.86	2	1.86
			/11/11	1	14	1.16	2	1.10
			/11/18	1	21	0.728	2	0.716
/12/23	1	56	0.160	2	0.158			
東海近畿農試 (三重畑作土) 鉍質土	—	—	/10/28	0	—	<0.003	2	<0.003
	2.5 mg/kg (100 µg/40 g 乾土相当量) 30℃	/10/28	/10/28	1	0	2.56	2	2.51
			/10/31	1	3	2.10	2	2.08
			/11/ 4	1	7	1.78	2	1.70
			/11/11	1	14	0.956	2	0.903
			/11/18	1	21	0.610	2	0.604
/12/23	1	56	0.077	2	0.076			